



中根岸所七十三卷
 方精桂園
 蘇羅萬象

服部文庫
 417
 2186
 30



117
2186
30



布告
布達
告示

昨三日大政友会より第百一号ヲ以テ友省院使廳府叙左
通リ達セラレタリ

本年十二月第百四号ヲ以テ諸省より務章程通則
達セ^ル法律規則ハ布告ヲ以テ發行シ從前諸省限リ
布達セ^ル條規ノ類ハ自今總テ大政友ヨリ布達ヲ以テ
發行スル条式ヲお達スル

但大政友及ヒ諸省ヨリ同公布スルニ止ルモノ
示ヲ以テ發行シ諸省ヨリ府縣長官ニ達スル儀
ハ從前ノ通リ

客年十一月十一日付質問新例第十四條成法ノ
儀ハ左ノ通

成法ハ大政友^ノ名ヲ以テ布告セラレ^ル所ノ法律
規則ニ限ルモノトス

警視廳

右及回谷也

参事院議長伊藤博文代理

明治十五年一月十三日

参議井上馨

御況

西光寺 中村より龍馬山大本堂院西光寺ト号ス。開山泉安上人
開基織田信長最初能州西光寺ニ住シ。避乱近江ニ到ル。信長信
敬之西光寺を建立。始安土城大手ノ前田の中ニ建立。天正十三年
亦有丹波豊臣秀次八幡山ト城ヲ築キ。安土ト改テ引遷。寺も又移
今此地是也。開山泉安姓八平依此地朱ね三浦尾流能本寺也。
存の子あり。泉安後寺地ニ居也。

本尊阿彌陀座像長五尺。仙工春日作

寺願工石世人安土端の事也。宗論多しハあるとあり。安土
淨藏也。天正七年。乙卯上月中旬の事也。果卷と云く淨土ノ係
あり。来り。説法をす。法花ノ逆宗の建部信智大願内
説法の老云不家と云く仕出。後宗論とある。右泉安宗論
の。ある。同寺をよりよ。とかく云ふあり也。

長命寺

長命寺山六中村之西南に在り。長命寺山高十三町
 余ゆり。六丁許上三長命寺何し山に長命寺村と云。本を七軒が
 本を聖觀音長三尺。聖徳太子の作なり。伊崎耶山長
 命寺云々。或云煖濟屋山三。人皇三十九代天智天皇の御宇
 当國志吹郡三郡大宮造り事あり。煖濟殿ありて。古
 に煖濟云々。もるを供養禮拜一日四枚をよむ。本を北
 傍にマセのいて流傳。後存れぬ就せん事あるは。以板北
 朽より湯改えをぬし。不思偏々板の板にて。大木下あり。
 人皇六十五代元平院弘徽の女御うせぬ。所をけき感時
 無花強を敷吃あり。一は。妻子孫室及三位正命神
 心他方とつらみ。思ふ程の心を起さぬ。禁闕
 と方のいぬさせむ心花山と子ち。仙法傳り。八雲法皇
 子ち。弘明那知。三。煖濟殿。没さく。三十三所。親善の云

壽命長遠
所成就

場を巡幸す。天三十二處あるに。ちるに。勝舞あり。本を代
 禮おゆりて。天皇のまをぬ。一。楊柳の板。禁大。をぬり
 一。を敷。説き。す。く。ま。を。し。り。の。言。院。を。思。念。生。き。せ
 市。修。り。の。り。志。や。す。く。ま。を。し。り。の。言。院。を。思。念。生。き。せ
 の。唱。り。あ。り。六。千。と。き。や。柳。も。名。き。帯。ち。尤。し。不。阿。由。し。れ
 か。さ。し。あ。る。も。ん。と。し。り。太。子。の。八。子。れ。又。と。く。を。智。入。堂
 の。楊。柳。の。因。縁。と。せ。り。一。一。後。今。あり

山海經曰陰山有獸其狀如狸名曰天狗韓文曰天狗形如犬奔有聲藤原賴長台記曰愛宕護山有天公老行所謂天公者何者乎答曰嘗見朝鮮鄭道傳謝魑魅文序云會津多大山茂林辟近於海曠無人店瓦蓋瘁泄易陰以兩其山海陰虛之氣竹木土石之精薰蒸融結化而為魑魅魍魎非人非鬼非幽非明亦一物也曰天狗殆庶幾于是與中幸書之木客山操似而非也深山窮谷往必有之其形不可見或現大身則長人如僕高鼻勾爪復小則羽化雲騰若變作異形怪人強字之曰天狗蓋象惡星也台記作天公明月記作天狗大成經天狗神姬神而威強其軀人身獸歎首也鼻長耳長牙長歎也左右不隨意則大怒云

諸云ニ載せる所由如くふして佛法を擁護するものなり
 是れありしはやもすれは御りも奇異をいふとて天狗のこ

とに及き岩瀨山の石神傍比良巖の次郎所の類あり
 は傍の聲十の所きこたふるるる所もいふは釋の言
 あのと賢郡比良山に在り十二佛多經に讀み礼ね候
 樹とて千餘帝次書由と云田村凡源朝臣又云神木
 十聲名きく遠くむもくはあしとてふ所なり天狗も
 何そ初と建し記也

浦生郡景四

金山 長吉寺より十のけり、遊れたる島ありて、

村におき、方々、村の東、東、兵衛と云々、山、主や、

岸まで、水深く、岩を尖り、湖中の大、龍、島あり、

人、丸、方に、雁、島のさむく、なる、水、島の、近、地、

善、除、の色、は、ま、けり、入、地、の、水、龍、の、島、の、水、平、大、島、

島、の、水、平、大、島、の、水、平、大、島、の、水、平、大、島、

新、由、北、日、長、字、方、の、臺、島、の、水、平、大、島、

玉、島、の、水、平、大、島、

かき、終、く、と、人、も、か、島、の、水、平、大、島、

さう、地、

と、島、の、水、平、大、島、

五、島、の、水、平、大、島、

一、島、の、水、平、大、島、

新、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

新、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

や、島、の、水、平、大、島、

新、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

水、島、の、水、平、大、島、

○

曹光寺 女工山に在る百の僧に在りて又山内より遠く一里を
与りて其の建都の所なり。此の僧は、行を以て修めたる
るに、大聖院版図を留め、林仙着を在るの自傳有り。
其行を以て好むは、其の布を以て、行を以て、其の謎の強有り
重と、智野永徳にその行あり。

そく版圖一 一不角持 枚紙一 入り算を以て
し上る 妙なり。
以謎解くは、(一) 巫ふを撰取を重とて、(二) 加けるは、
才を以て上と云ふことなり。其の行、其の行、其の行、其の行、
誠とせし作し、ことなり。

砲術武藝正傳曰

南浦集曰天文十三年八月廿五日大隅國種ヶ嶋州西村に少浦より船一艘漂着に船客百餘人あり其形数多言流せし中にて大隅に儒生を人たり五峰と名ツリ時浦司城部丞下云者殿文より通せり保力峰と名ツリ漢人等其地買ありと云るを以て同大隅者并導く赤尾不伴舟入り少浦より種子島時竟初也と流傳し保力峰をその名を流せしに買あり此の人も其年良叔舎在利志多島太と云ふより尺斗を以て其功も先刻を以て流傳也時竟初の價をりきりて二のを買取又主は流傳し其術を老人丹習得たり其業は制法は少臣並利少の也又流傳し此の流傳根来し保松坊と云ふ者あり王と云流傳し鉄砲と云む時竟其能を流傳し保松坊と云ふ者あり

中田物と云ふは流傳し保松坊と云ふ者あり其功も先刻を以て流傳也時竟初の價をりきりて二のを買取又主は流傳し其術を老人丹習得たり其業は制法は少臣並利少の也又流傳し此の流傳根来し保松坊と云ふ者あり王と云流傳し鉄砲と云む時竟其能を流傳し保松坊と云ふ者あり

流 遊西之云 記 外 記 井 上 云 一 二 亦 流 後 井 内 云 亦 不
長 不 丈 云 三 本 云 數 亦 云

千葉一人較流較朝、為代官建久、考為國、下、土、石、陸、皇、

終 固 其

桓武天皇後流三浦大介十六代佐久間久衛門尉盛次嫡男中散
大夫玄蕃允盛政柴田勝家姊天文廿三年生於尾州愛智御着
曾加州尾山城主後住全次城殿二十万石資性豪雄不怖危迫奮
勇頭巾世人稱鬼玄蕃天正八年十月北國諸將等發兵勝家令
盛政及柴田三左門尉勝政擊之二人戰勝獻首級於安土信長命
二位法印稱其功九年二月越中松倉城主河田豐前守長親通長
尾景勝欲攻加州於越中一授蜂起攻勝家臣毛利九郎兵衛尉
加州白山下不毛城盛政在尾山城聞之發兵未至半途城已陷毛利之
死盛政急擊之一揆尽潰十年能州石動山衆徒聞信長公之喪
通前國士澀井備前守三宅備後守欲歸國二人喜、得越後長
尾景勝拔兵六月廿三日石動山築砦於荒山前田利家聞之廿
四日晚請援於柴田勝家及盛政公之時在全次城不告勝家急
率二千五百騎至能州高畑馳使告利家公之率二千六百兵出能州

卷 見 易

七尾城廿九日晚温井三宅將四千餘兵至荒山利家至石重山荒山之間
芝流温井三宅既文又温井三宅率手兵二千余人入荒山安善盛政令
拜御五郎左工門尉壓石動山以樽村四郎三郎為先鋒攻荒山隨之殺
獲甚多殺温井三宅并石動山眾徒數若院温井之兵山庄藤兵
衛筒井稚永助使野村勘兵衛尉送五人之首於前田陣前田甚喜
與野村於村二口拜御新石動山通路敵兵遁去者盡殺之十年十
月勝家用澁川一益之計偽與秀吉和秀吉亦偽亡十三年秀吉
至長濱築砦置將德北兵十一年二月盛政率二万余兵出江北
前田孫四郎利長先登放火秀吉時攻澁川在野州聞之乃班軍
二月十日歸到志津高翌日早從老兵十余人攀峰望敵曰我進
擊必難得急効不如用守而待敵入我掌中遂歸長濱四月中
旬信孝御忘菜田四月十七日秀吉遣兵濃州大柿去年十二月
紫田伊賀守勝豐勝家子在江北長濱城秀吉用之以討築摩

鑿
碑
曆

今居本山若木村小舟人佐共守時勝豐疾病甚其臣木下羊街
門尉大金勝八郎山路將監自至京養病四月十二日山路林及本
山降盛政因告曰一昨日云濃州將攻信孝卿之已獲兵救勝家之急
君宜救信孝子否盛政曰君已思之然山谷險阻且大敵在其前若
不能如之何山路又曰中川瀨兵衛今守余沼湖旁若已與請若隔
以敵陣之速守備固疎急擊之必其不意必有利矣盛政可之與保
田久御門尉安政共告之勝家之曰我與請將襲敵諸若汝且
攻中川若戰終且歸來也廿日紫田三左工門尉勝政前田利家父子
原彥必帥安井左近大夫及勝家之兵共襲諸若盛政率一万余騎
夜過湖上使安田久工門尉安政不破彥三德山五兵衛尉攻中川若
中川清秀防戰高山右近大夫重友來戰盛政令神部兵工門尉分
一十餘騎焚若山之根小屋神部分二軍以其一襲若以其二焚根小
屋敵見大而敗中川共近藤與盛政力戰而死身獲中川之首

鑿
碑
曆

高山格若走時日已西盛政送中川首於本陣勝家甚喜馳使於盛
政陣云秀吉性急且進追神速聞攻中川與諸若之兵共未戰則
吾軍必危且早引歸時丹羽長秀自以本成未入志津高政
欲討之故不從勝家命勝家使之使凡五終不從日已暮秀吉在
大柿聞盛政攻中川未判率一万余騎去大柿子判至木本告
諸將廿日夜羊拒大瀨山盛政乃知秀吉來自班軍夜已明敵來
急盛政合原女井為殿自登志津高北藏王社與勝家隔險阻先
是柴田勝政三千余騎馳志津高津續坂切而陣是日朝盛政
使人告勝政早來于此勝政將退秀吉近習小姓七人馳來文德
勝家軍敗信田女改馬上少戰奉敵旗三奪其意欲搏秀吉而不遇秀吉
而後軍亂走敵大進盛政女改兵走市一日勝家率七千余騎去陣間
兵敗大怒欲待秀吉而戰聚其兵僅三千家臣毛受勝助諫曰天運已

而雖戰不能有功臣請賜君馬驗犯諱死於此君且逃北庄而自殺
勝家從之毛受乃立金御幣馬驗自稱柴田修理亮勝家與兄茂左
工門力戰而死勝家至北庄四月廿四日自殺男女三十余人皆自盡
城亦焚盛政隔險溢不得通勝家乃欲至加州為北庄後檢途中村兵
蜂起廿二日夜山中與柴田權六共為擒送秀吉陣見淺野長政
曰容鬼玄蕃子鬼亦為擒予盛政睨視罵曰燕雀何知鴻鵠之志昔
源賴朝為囚請命於池尻後滅平氏叛又讐是元師之益而非近
走之量生而不得討使死而重五鼎而不悔者大丈夫之志也吾若斬
中川後從勝家之命引歸本陣擒秀吉全戰勝之功何至于此乎秀吉
實有天助我聞者鳴舌矣秀吉使長政謂盛政曰我知汝勇不忍
誅之能從我乎我未服九州汝若從我則與汝肥後國可討九州盛政
曰助命投國可謂重見然我畧九州入洛謁秀吉則必怒心雖已必
刺殺秀吉不報二月而却為怨讐未見其可何不速殺我長政歸報

警 錄

警 錄

秀吉曰我之免盛政之死以我為欺于我之虛矣任天體何可疑盛
政曰我國不疑君言今釋我死猶養虎自貽害也我必乘車巡視
後就死耳長政婦報秀吉感賞之供白衣也盛政長六尺余而相
尺計服大山口甚兵衛副田甚左江門護權六盛政至京御浴中
斬之三條河原盛政請筆自書歎曰

世の中をめぐりてはてぬし車ハ六毫のくまをいつ
らやんか

時年三十歳天正十一年癸未五月十二日也後置牌於豊后竹田城
英雄寺法号曰英伯善俊大居士

つは巻初尚万等、後歌、代島在老唐て、まをせりめ二
老ラクノ月ニ、ウトキ郭公思ひ出ルヤ、初音ナルラン、

後傍正永縁周交ニ移レケレハ

郭公イツモ初音ノ心地コソスレハ云夫ヨリ異名ニ初音ノ

僧正ト云レガ

一大筋を承け、時、所傳に、以能アリ、諸大名見初初印付、所傳は、ニ松平世
奥書、由來、小用、に、まレケル、が、未だ、一、葉、柄、又、中、印、ノ、イ、ラ、レ、ル、其、例、ヲ
通、ラ、レ、ケ、ル、ニ、正、宗、ノ、禱、ノ、ス、リ、又、四、部、版、ノ、勝、ハ、サ、ク、リ、先、天、正、宗、ノ、モ
ナ、カ、リ、シ、ガ、按、抄、モ、ナ、ク、元、ノ、中、著、イ、ラ、レ、ル、也、又、四、部、版、ツ、カ、ク、ト、立
ヨリ、扇、ヲ、以、正、宗、ノ、教、ヲ、タ、キ、元、ノ、中、カ、ハ、リ、イ、ラ、ル、**執、人、興、ヲ、サ、ス、正**
宗、少、シ、モ、是、ニ、言、者、也、所、然、ヲ、之、如、シ、テ、イ、五、ヒ、ケ、ル、兩、方、念、比、九、象
中、是、ハ、正、宗、地、忍、セ、ラ、レ、シ、**船、中、ト、云、**所、然、ト、言、ナ、レ、ハ、壽、ガ、ゴ、リ、イ、ラ、ル、也、
是、去、ノ、子、子、と、来、ナ、リ、テ、兩、方、ノ、目、ヲ、付、テ、所、然、ト、言、セ、退、出、セ、ラ、ル、ト、大、勢、カ

我即印ナリ
其後ヲ大塚
マラレル
沙ハ夜ヲ見
只今おる果
我モノナリ下打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ

正宗ハナレズ世ニ正宗ノ存命送レシケル又四洲海へハ親教念比凡衆
爲シ以テ其ノ致シテ公儀ノ思召ニ使ナラス爲シ早ク正宗
ノ行ヲ云テ先ケレテ先利ハ確任致殊忽テ其行段四
用指ムルハキ由全比テ衆子以テ是ヲ致ナル又甲印及同々ナレト
是トモカヨク其行ノ其折ノキリセシ正宗我子ハ先利ノ形カラ
確任人ト有住氣醒たレハ歸國カヘ下ナレマ申出ナリ
ノ上ハ此其面テノコトトテ要テテ夫ハ乘レテ過リニ思召トサレ
マフニトテ何レモ取テ正宗ト兼テ中坐リノ並下仲人ノ方等迎
ヘ並両方ヨリ向フカカワサレケル時正宗兼ニ並ヲサレ看甲下
テ幸若ノ小舞ヲ能ハレル打テ腹タニイルラバナリ程モウチ木
坊ト面フリヤケテ打セケリト云処夜討等我ノ内ヲウケワレケル
寸取テ此ニカモアルハシ

大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ
大塚トツラフリヤケテ打セカ
打テ腹如ニイルラバ

白麻子長女
義光子長女
嫡子四身不
減の大印義
成年ニ在
二信名
四ツ方テ
代ニ成子
初時テ四
五通く年
武士高者
何代ニ在

信長父彈正忠房多事分も任メカシテ今川為元ノ旗ニナリ
口士波幸ニ後美濃一國ノ主成然乃チ進孫
口山両嫡義祐親等ノ親會常依信トシ後美濃へ渡レシ
市状子 總ノ目上成河前州有内守海
津の氣取ラス美玉市上而張セカる仕成也成美
色多クは美成子成子成子成子成子成子成子成子成子成子
口上ノ成美成子成子成子成子成子成子成子成子成子成子
徳田山守
信長

白麻子長女
義光子長女
嫡子四身不
減の大印義
成年ニ在
二信名
四ツ方テ
代ニ成子
初時テ四
五通く年
武士高者
何代ニ在

法性院殿
御
信長

多事代也又
改三入と
ニク、リヨセテモ
信也ノヲ指記
ニヨリ
ニヨリ
ニヨリ

極月廿二日

大原正隆

源田上総守

了陽、山縣、高保、山田、兵衛尉、原、人、路、大、坊、也、
於、中、守、及、母、昆、弟、在、城、主、時、所、村、傍、右、門、下、也、中、守、二、年、
二、入、内、外、用、了、陽、自、其、才、院、成、二、ホ、コ、リ、要、る、修、治、了、陽、中、守、
耳、大、内、守、元、久、所、果、カ、坊、子、二、成、式、ブ、テ、都、府、任、二、テ、三、年、右、乳、
ケ、五、式、部、令、比、ニ、マ、シ、ラ、イ、境、在、内、フ、モ、極、ス、ト、お、也、一、悦、入、遠、北、飛、
鳥、二、テ、院、二、行、フ、ヘ、キ、田、式、部、兼、之、極、罪、ノ、者、何、在、元、至、極、罪、一、也、
極、二、在、汝、也、何、子、何、用、檢、引、一、也、中、守、多、ク、推、し、重、系、極、在、内、フ、大、要、
ノ、者、二、何、ク、兼、テ、極、者、汝、付、之、其、上、三、極、也、何、付、ラ、ル、ニ、テ、以、守、中、人、二、持、
檢、二、也、二、何、ケ、テ、守、リ、極、二、也、以、甲、守、何、ト、モ、送、或、何、極、ノ、極、以、常、光、中、
上、其、段、廣、三、ヒ、テ、世、傳、同、再、三、推、系、ナ、ル、中、イ、カ、ヨ、フ、終、ニ、テ、出、ケ、ル、ト、
尋、子、玉、フ、以、家、老、中、モ、以、極、極、在、極、益、計、申、二、取、次、申、サ、ス、極、子、也、二、以、
申、上、ル、カ、何、カ、打、ト、望、留、行、通、二、也、極、方、而、ケ、打、テ、二、可、也、ト、申、甘、ラ、ス、
極、二、也、三、也、四、也、五、也、六、也、七、也、八、也、九、也、十、也、十一、也、十二、也、十三、也、十四、也、十五、也、十六、也、十七、也、十八、也、十九、也、二十、也、二十一、也、二十二、也、二十三、也、二十四、也、二十五、也、二十六、也、二十七、也、二十八、也、二十九、也、三十、也、三十一、也、三十二、也、三十三、也、三十四、也、三十五、也、三十六、也、三十七、也、三十八、也、三十九、也、四十、也、四十一、也、四十二、也、四十三、也、四十四、也、四十五、也、四十六、也、四十七、也、四十八、也、四十九、也、五十、也、五十一、也、五十二、也、五十三、也、五十四、也、五十五、也、五十六、也、五十七、也、五十八、也、五十九、也、六十、也、六十一、也、六十二、也、六十三、也、六十四、也、六十五、也、六十六、也、六十七、也、六十八、也、六十九、也、七十、也、七十一、也、七十二、也、七十三、也、七十四、也、七十五、也、七十六、也、七十七、也、七十八、也、七十九、也、八十、也、八十一、也、八十二、也、八十三、也、八十四、也、八十五、也、八十六、也、八十七、也、八十八、也、八十九、也、九十、也、九十一、也、九十二、也、九十三、也、九十四、也、九十五、也、九十六、也、九十七、也、九十八、也、九十九、也、一百、也、

北条

伊勢新九郎長氏長祿二年宣州進山二到北条家ヲ繼キ伊
勢依ヲ改メテ余ノ号ニ明應元年相州少田原ノ城主大藏冠孫
良市八代ノ後流大志花前守買頼當城ヲ望リ守ルトイハレモ
北条長氏是ヲ攻大森一門共ニ田原ヲ救ハレトテ兵ヲ發シテ
北ノ戰フラスミ、終ニ大志花屈シテ城ヲ渡シ長男秀十郎
春頼又子共ニ洛去ルルイ、多ク於テ、北条少田原城ニ移
テ居住ニ長氏入道シテ甲斐守ト号ス、文應三年二卒ニ息
左京大夫信經伊豆相模ヲ相續シテ、式ニ至ハ、子息左京大夫
康家督ヲ繼テ、其後関八州ノ大守ト成ル、舍弟上總介経中ハ
福房ヲ福島氏トイフ、其後其傳ニ居城シテ、月鑑左門大
末ト号、其以後武州越合頼ヨリ、以、末、又、北、条、氏、ニ、成、ル、
成、カ、武、雄、世、上、ニ、傳、シ、テ、經、成、指、物、ハ、地、苗、ナ、ル、少、旗、ニ、八、幡、宮、

養

ヲ書タル故世ニ是ヲ乎ハ地黃ハ幡ト云

三下
遠海城川城ニ

其子氏繁後改テ康成ト云フ氏重令嗣ヤキニ依テ領知君上ラシ

早雲入道ヨリ既ニ六代ニシテ新絶スル云 興亡記

茶ニ丸 伊豆坂越の所所、長子ニ継母、淨ニ子、子孫ノ後継ヲ由

今世の安んじてほむを在るハリカレたるところと云フ云ツを吾あはるハ

源波の系に、ますれまも、はゆるかな、能なくゆゑ思

笠このぬぐたれのたの、うづほの物語藏開の巻にたしおほと

の如しりなば、あぐ、よたわづき、まんす、全葉深遠の二に

竹窟クニ、たが、お、にた、つ、けて、け、さ、か、た、み、に、ゆ、り、こ

して、と、互、た、を、同、し、と、す、し、左、の、種、子、あ、ち、り、た、る、所、に、た、の

づか、り、お、外、た、る、を、し、ひ、今、の、こ、と、さ、し、に、つ、く、る、ち、り

遠海城川城ニ
老馬ニ
○

鳥井彦右衛門元忠六十二子彦頼ノ豆麩大将雜賀孫ト即直次カ為ニ
討レケリ

商人佐野四郎ト者常ニ元忠ノ許ニ往來情深リシガ元忠ノ首ヲ盗テ

和恩院ノ内長源院ニ葬シ子息新太郎忠政ノ久立成次ホ、宇都宮

ノ所陣ニ在テ累勝ク兵ヲ防カセテ成次ハ上方ノ陣ニ在

元忠ヲ討タリシ雜賀孫一沖直次其後水戸中納言ニ仕、或時人ヲ以テ忠政カ以

申シテハ直次曾元忠ヲハ最後ニ奉リ其時ノ物具我家ニ傳、迄ヲ先

考ノカタニハ、直次曾元忠ヲハ最後ニ奉リ其時ノ物具我家ニ傳、迄ヲ先

テ忠政ノ館到ル忠政門外ニ迎亡父ニ再會、心也スル、後ヲ下、甲冑大刀

ハ押取ノ上ニ立キ是ヲ拜シ直次ニ御禮、名、明、直次ノ許ニ使者ヲ遣シ

禮、泚ス、其カ志ニ依リ、亡父ノ最後、常シ物具ヲ見テ悦ヒ又忠政カ家ニ傳、

し、父ノ形、又多シ、其、跡、テ、見、カ、家、ニ、遺、シ、名、譽、ト、シ、子、孫、ニ、傳、

ラレ事ヲ失ルル事ノ道ニ純ハシ遠誠ニモヤサシキ後毎半綿厚ク
入タル衣四五領使者モタセテ掌倭國ニ送りし音信ヲ通ルルニ是政
中一期ノ程終ニ不定水戸殿此由ヲ大感シ年々之政カ使者来ル時
期ニ臨ミ道果ヲモ修理サセ重次ニモ客ノ儲スヘキ道ヲ採ルル如ク

史政 新正市 左京亮 慶長七年賜 御岩城下戸者物賜上遠野竹

費二万石

成次 久五郎 工儀子 寛永八年 正月十日 卒六十一

史恒 左京亮 饒史政之家督 賜上二十四石 寛永十二年

三月十七日 卒三十三

史春 主膳正 史恒死去依無子史春家督之号 改最上以賜信州

高遠成三万石 寛永十七年正月 叙従五位下

石田三成被討
二萬石
七萬石
以上鳥居元
忠之面談
鳥居元忠
鳥居元忠
鳥居元忠
鳥居元忠
鳥居元忠

四信八年 弟八号 高遠

夫一金錢貸借 天引 高遠 又ハ謀 謀 謀

才物 伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

伊賀子忠吉 安祥 友任 弘治三年二月十五日 德川殿 四年 十五 至 崎 崎 崎

永徳三年三月
遠江國
徳川合戦
三月十日
三月十日
三月十日

一海外叢記

方今世界ノ強國ハ一英國才ニ仙耶西第三俄羅斯第四魯士ニ政羅也ニ法蘭西遠隔シ地ニ所被アル者英仙島南島西
 西班牙南葡萄手馬ホモ是ニ西班天國往在強盛ナリ
 カ近キハ國皆華強シテ絶然内訌アリ俄羅斯國ニ支那北東
 ニ往來スヘキ為メ大轉輸ノ便道ヲ造リ凡歐羅巴諸國ニ便
 道ノヤキ國ナリ殊ニ英仙兩國貿易多シ荷口東ニハ遠海ニ乞
 食アレハ官吏不食子庶一業ヲ就シム國サハ強ク之ヲ行シム故
 民ナク盜賊ナレト云病院多院ホノ政ハ政羅巴在國以大利ハ
 回ヘ子ニヤヤサルテニヤトエカ子ヘ羅ナリヘルテ外數ヶ國ニ多ク
 十年前カサルテニヤ王皇雄ニシ諸國ヲ一統シテ改テ以大利國ニ
 ト稱ス内ニ羅馬法五段ハ保存セリトモモ當時ハ伊太利隆盛
 ニシテ法王ノ權相正ニ教廣地ニ此國氣候温當今西利

海國

伯彥國政羅巴ニ通ハセサルモノナリ直朝鮮ノミ強國セシニ此
 ニ佛國リ爭端ヲ一開ケリ思フニ法蘭西一戰ノ後西人ノ教化ヲ蒙リ西國
 ト交ヲ結ニ終ニ諸國ノ所轄ヲ免レ獨立不羈強國ナラシム
 必セリ也同元西國ト交通セシ四五十年前邦内ノ亂アリ此仙島
 ト戰ヒ敗北シテ和議ヲ行ヒ當時ハ國勢盛ん威ナリ是國氣候温
 熱ニシテ稻粟一歳再熟ス大寺ハ草堂ヲ用ヒ錢ハ改和通宝ナリ年
 号記セリ方今金貨ヲ用ルハ法蘭西ノ本國トノニ暹羅國先自ヨリ
 國政ヲ改革シテ急政羅巴ノ利交ニ隨ハ又留學學生ヲ出セリ以國教
 第一歳ニ再熟シ米價極メテ賤クシ食貧民甚稀ナリ宗旨ハ佛教ヲ
 奉シ大寺工等ノハ漢字ヲ學ビ海濱ニ住スル賊民ハニレイス字ヲ
 用ルテハ語ヲ用ル多シ印度海諸島ニ送テ英和兩國管轄ニカ
 ルヘアフリカノ東偏ニニタカスルト云大島其廣サ日本ヨリ大ニ氣候甚
 温和ニシテ醴熟ノ流クヘ四月月余ハ送テ春ニ上田頭ノ膏油ニテ物産

海國

豊碩「アフリカ」洲中第一ノ良國トス人ハ黒褐ノ三種ニ依リ男女
五アリト云、紅土壤肥沃ニシテ物産饒多ナル内ニ米ハ歐羅巴第一ニ
ト云支那近境ニ西洋學ヲムル者多シ上海香港ハ英米兩學校ヲ
建セリ此用繁庶ナリト云、多國徒最モ多シ蓋坤輿中富良氣
食多キ國ハ支那ト曰クナリト云、西洋諸國ニ渡來セル素荷竹
ナリ、俄羅斯ノ多ク活ルモ流ルナリト云、詩人ナリ、西葡以隣
ニ居ル文字甚ムニタリ、北ハ荷蘭ヨリ多クタル國ナリ、言語ハ似タリ
ト云、教ニ奉ル法國ハ紅土政羅巴ハ異ニ今年千二百万ノ民多クナリ
ト云、西刺伯波斯及印度海諸島ニ用ル文字ヲ云レバ、文字ニ依リ
百ノ梵字ノ遺風是ヲ左ニ示シ、鋪モ々右ノ梵字ヲ今印度ニモ施セリ、大
刺伯國羊ハルコニ屬ス羊ハ土前ニ居ス、土其ハ歐羅巴洲ニ跨ル
リタル大國ニシテ、數邦ニ分テ一邦毎ニ巴札ト名クル大商ヲ置テ守セ
ル、此巴札云國帝ニ致スヘシ

アフリカ洲古昔北部ハ英治ス、墨西哥以南ハ西ニ付テ、巴西葡萄
子ニ屬ス、華盛頓英ニ勝テ獨立シテ、合衆國トナリテヨリ、墨西哥
已下皆之ニ依リ各邦ニ屬ス、合衆國ノ文字ヲ云レバ、合衆國ノ文字
同シ、西ハ葡萄子ニ屬ス、此ハ合衆國ノ文字ニ依リ、合衆國ノ文字
度文物ニ傷リ、英國ナリ、其他ノ法國ハ之ニ有レリト云
一外國ヨリ呈

大君使節其望ニ應シ、薩摩候ノ製セル襦袢金ノ品ヲ寫シテ
出セリ、是ハ博覽會ノ初日、薩摩ノ使者ノ頭ヨリ、我國帝ノ眼前ヨリ告知
アセシ、今日飛脚船ノ出航ニ望ムヲ以テ、變曲ヲ尽スニ違アラズ
千八百六十六年、英四月廿四日、我卯三月廿日

千ヤルレテラバルー記
羅尼
日本外國局工呈

卷一

薩摩琉球国王之褒賞金

鑄金

薩州為社符瑞

夫我初國之今は天降以緯之位之居りて起而為道之山を川
深く此儀に任使するを教書院を御河河を玩味の御也此九人
生に用たる志こころして其後分りさるる事一也加ふる人智性計りて
我多の事多し多し亦何れも其か其國に流揚する事一也其初國
なり所以に九人此を為す年来力を他に外す缺を以て補はれ
して其初國に始りて其多し其多し其多し其多し其多し其多し
一其初國に始りて其多し其多し其多し其多し其多し其多し

運船のありしむり西上をうけ國貿易少由に陸へ來り貿易者
貿易一様貨物の極まてすよ申一は常より積極を極りて我を利
一も考て我を極極利するの極何れも其利中ふる、其何れ
時を由り極極利極極一にて其多し其多し其多し其多し其多し
極極して少して其多し其多し其多し其多し其多し其多し
るに利せらるる他は其多し其多し其多し其多し其多し其多し
一二のものを極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極極
一其初國に始りて其多し其多し其多し其多し其多し其多し
血脈は其多し其多し其多し其多し其多し其多し其多し其多し
一其初國に始りて其多し其多し其多し其多し其多し其多し
其初國に始りて其多し其多し其多し其多し其多し其多し其多し
の洋玉貿易を地とせらるる事一也其多し其多し其多し其多し其多し

少我の被下貿易して被下利を収めたること甚だその爲めは
（一）（二）（三）（四）（五）（六）（七）（八）（九）（十）
（十一）（十二）（十三）（十四）（十五）（十六）（十七）（十八）（十九）（二十）
（二十一）（二十二）（二十三）（二十四）（二十五）（二十六）（二十七）（二十八）（二十九）（三十）
（三十一）（三十二）（三十三）（三十四）（三十五）（三十六）（三十七）（三十八）（三十九）（四十）
（四十一）（四十二）（四十三）（四十四）（四十五）（四十六）（四十七）（四十八）（四十九）（五十）
（五十一）（五十二）（五十三）（五十四）（五十五）（五十六）（五十七）（五十八）（五十九）（六十）
（六十一）（六十二）（六十三）（六十四）（六十五）（六十六）（六十七）（六十八）（六十九）（七十）
（七十一）（七十二）（七十三）（七十四）（七十五）（七十六）（七十七）（七十八）（七十九）（八十）
（八十一）（八十二）（八十三）（八十四）（八十五）（八十六）（八十七）（八十八）（八十九）（九十）
（九十一）（九十二）（九十三）（九十四）（九十五）（九十六）（九十七）（九十八）（九十九）（百）

警 戒 局

是を辨知し、其の利を収めたること甚だその爲めは
（一）（二）（三）（四）（五）（六）（七）（八）（九）（十）
（十一）（十二）（十三）（十四）（十五）（十六）（十七）（十八）（十九）（二十）
（二十一）（二十二）（二十三）（二十四）（二十五）（二十六）（二十七）（二十八）（二十九）（三十）
（三十一）（三十二）（三十三）（三十四）（三十五）（三十六）（三十七）（三十八）（三十九）（四十）
（四十一）（四十二）（四十三）（四十四）（四十五）（四十六）（四十七）（四十八）（四十九）（五十）
（五十一）（五十二）（五十三）（五十四）（五十五）（五十六）（五十七）（五十八）（五十九）（六十）
（六十一）（六十二）（六十三）（六十四）（六十五）（六十六）（六十七）（六十八）（六十九）（七十）
（七十一）（七十二）（七十三）（七十四）（七十五）（七十六）（七十七）（七十八）（七十九）（八十）
（八十一）（八十二）（八十三）（八十四）（八十五）（八十六）（八十七）（八十八）（八十九）（九十）
（九十一）（九十二）（九十三）（九十四）（九十五）（九十六）（九十七）（九十八）（九十九）（百）

警 戒 局

とよ汲き之を主民を若しむるに法を立たるは他
ありしに只時子存し便に法を改むるに法を立たるは他
班防ハカとして大少し強をしく強をしく免責簡して
業大なる者にして美に多し良法之法を存し我彼に相少に
彼の意きとありて法を良きに善に存法を存の法を
同テ今之明徳の法を存へき公又重して之を存地は連花
かち社と法ス夫全國の法を存するものなるに物我存あり
方位たるは何れ然と公是と他記するものなるに法を
立んるは美なる年久し然も亦く是を立る者何れ存るは
日下盛起き同テ之を法として其法を存し其法を存して
外ハ我リ有我リ洋の貿易と利して之を存し其法を存し
我民用故度所て皇國の法を存するものなるに法を存し
は法を存し其法を存するものなるに法を存し其法を存し

さるる美をまたけし初一美くハ多し強をしく強をしく
て方よ力ヲ在也少して大なるに法を存し其法を存し
我リ民用を存し其法を存し其法を存し其法を存し
同士の法を存し其法を存し其法を存し其法を存し
詭に多し其法を存し其法を存し其法を存し其法を存し
るは法を存し其法を存し其法を存し其法を存し

○
漢口信儀ヲ後出山老威炮海軍地は法を存し其法を存し
拒ラレし姓名不也

警
見
局

警
見
局

償金部

薩摩藩士英人りちやどそんヲ生殺ニ斬殺スルヤ英國政府ハ曰
幕(五十一)カ薩藩ニ三万弗ノ償金ヲ要求シ薩藩ノ之ヲ諾
セザルヲ怒リ直ニ軍艦ヲ魔島ニ向ケ城市ヲ破壊シテ終ニ
其償金ヲ得タリ

元治甲子ノ年長州侯ガ馬関ニ於テ外國船ヲ砲撃スルヤ
英佛蘭米ノ四國ハ三万弗ノ償金ヲ要求シテ之ヲ四國ノ
間ニ分テリ

明治元年ノ二月土州人泉州境ニ於テ佛人十六名ヲ殺傷スル
ヤ佛國ト使ハ五條ヲ以テ我政府ニ迫リタリシガ其一條ハ償金
十九万弗ヲ得ルニ在リ

支那道光十九年林則徐ガ阿片ヲ廣東ニ燒キ拂フヤ英國
政府ハ兵ヲ出シテ清軍ヲ破リ其廿一年香港全島ト六百

万弗ノ償金トテ得ニテ之ヲ約シタルニ清廷其約ヲ渝ヘタル終
ニ二千一百弗ノ償金ヲ出サシメタリ

咸豐六年廣東道臺ガ盜舩あるろ一号ノ桅頭ニ掲ケタル英
旗ヲ撤去スルヤ英政府ハ佛ト同盟シテ北京ニ向ケ城ハノ盟約
ニテ四百萬兩ノ償金ヲ出サシムルト為リシニ清廷再其約
ヲ破リタレハ英政府ハ直ニ其額ヲ増テ八百万兩ヲ要求セリ

我政府ハ臺灣土民ガ琉球島民ヲ屠殺シタルニ付結局清廷ヲ
シテ五十萬兩ノ償金ヲ出サシメタリ

明治十七年ノ諒山ノ事變アルヤ仏ハ清廷ニ向テ先ツ五千万兩ヲ
要求シ其後上海ノ談判ニテ之ヲ一千六百万弗ニ減シタルドモ清
廷之ヲ肯セザルガ為ノ遂ニ今日ノ佛清事件ヲ惹キ起スニ至レ
リ

我政府償金ヲ朝鮮ニ要求セシハ前後二回ニシテ明治十五年大

第 二

共	二	人	内	守	仕	罷	督	私		石
二	取	二	二	殿	合	成	無	親		見
從	成	二	家	八	而	猶	相	伊		守
類	レ	夜	来	御	恩	御	違	勢		殿
迄	レ	レ	女	書	難	増	被	守		懐
御	レ	レ	藤	院	有	御	仰	先		中
任	レ	レ	甚	番	難	後	付	年		二
置	御	二	五	頭	筑	後	御	於		出
二	僉	伊	左	故	前	等	厚	駿		立
ナ	議	守	門	組	守	被	恩	府		ア
リ	ノ	殿	ト	共	討	被	被	不		リ
レ	上	ヲ	松	駿	果	作	成	慮		其
ト	二	刺	永	府	候	付	下	成		文
也	ニ	殺	喜	ノ	以	生	且	横		二
于	ア	レ	内	御	上	々	又	死		日
時	ラ	自	ト	城	ト	世	当	仕		
明	ハ	害	云	番	有	々	御	候		
曆	レ	ノ	者	々	親	々	代	処		
元	兩	体	二	リ	又	々	二	二		
年	人	二	二	レ	伊	有	家	家		

警見局

際君、記ニ八九十五万圓ヲ出サシム
 (邑直翁考云)
 信州高井郡木高村ニ銅切ノ役ヲ彼ノ甲越ノ合戦ニ付キ保
 録ナル所アリ字後次ノ稱シ 後次ヤ孫也云云
 其内四十万圓ハ客歳ノ末ヨ以テ之朝鮮、還贈シ未タ歳ナラ
 ズ昨年十二月京城ノ事變アルニ及ニテ又ニ十三万圓ヲ要求
 スルトハ爲レリ
 彼佛國千八百七十年ニばれり三世ノ治世ニ當テ大ニ普西ノ軍ニ
 敗ラレある事ナリ。ろーれいんノ二州ヲ割キ十億弗ノ償金ヲ拂ヒ
 タリ

共ニ從類迄御任置ニナリシト世于時明曆元

増	年	川	中	前	千	石	田	一	九
三	二	安	守	守	石	春	田	龍	月
大	九	中	殿	守	石	春	田	龍	十
御	千	一	親	正	子	日	加	前	自
老	石	城	又	盛	續	局	守	守	喜
中	御	主	平	ノ	ス	一	嚴	嚴	内
仰	加	タ	盛	ノ	後	族	ハ	八	見
行	増	リ	殉	後	補	故	世	人	小
ラ	同	追	死	業	美	即	ノ	知	性
ル	七	付	ノ	美	濃	局	知	ル	ナ
家	年	若	時	澤	守	ノ	通	リ	リ
保	二	年	一	守	正	養	リ	ト	由
ノ	又	一	万	則	則	子	ト	行	
五	一	万	石	之	之	ト	云	後	
時	石	石	御	智	智	十	始	任	
二	ノ	増	加	ト	セ	リ	ハ	倉	
保	御	アリ	増	テ	ラ	局	三	城	
在	如	テ	アリ	ル	ル	ノ	千	主	
本		上	備	統	統	三	堀	堀	

第二編

ノ御代ニ至リ、大キニ御昔ニ十七、段ノ所加増有テ、安中ヨリ古河都府
 十三万石位少時ニ至リ、大老職ニ仰付テ、加判等御免有時ノ威勢
 日ニ三倍シ、家ノ繁栄、其身ノ榮耀、諸人ノ崇敬云々計リナリ、如聖書ノ又
 ハ、御田御所ノトキ、在御中納言秀秋、口ニ九万石ヲ領セラル、其子勝三、口
 本サレ、七万石ヲ下サル、其子權八、正盛所、口九千石ヲ勤、後若ク、十一
 段領シ、段ノ口、段立ナサレ、正盛領時、至都府、十四万石ヲ下サル、其妻
 正盛、其時、正盛殉死ス、其時、四十六、如聖守、嫡子、上野人、十三万石、カ
 督、佐倉、三有城、二男、八服、後ノ若子、三四万石、カ、御一、一、石、是
 御一、一、石、八、四、男、五、男、五、千、石、死、正盛、御一、一、石、是
 八、可、三、三、年、十、月、御、御、子、若、一、段、地、召、上、テ、口、段、ケ、ナ、リ、テ、家、内、池、不、撤、沈
 前、守、殿、佐、中、殿、ノ、時、ノ、一、也、古、ニ、テ、家、内、人、ニ、シ、カ、後、善、修、放、碎、ニ、シ、テ、倍、長、長
 人、ノ、所、ノ、二、十七、日、ハ、如、聖、守、ノ、正、盛、ノ、威、力、ニ、品、川、表、ノ、福、所、ト、シ、出、徳、又、其、子、テ、土
 綱、ヨ、リ、也、正、盛、ノ、身、也、深、ノ、更、及、口、江、戸、取、付、テ、居、宅、ニ、凡、味、九、小

卷之四

中モ、ウロタヘタリト足、タリ、石之者外へモ向ヒテ御カハ、討るル也
 方へ、花前等ヲツカヒ、刺殺スル後ヨリ、無二、切殺スト云々、
 之、後ヨリニ、石之者モ、乱心ニテハナリ、**芝居**ニシタルヘトシレ、先、其付ハ、
 知レサルニ、**殿中**ト云外、**存籍ノ鉢**ニテモ、アケレハ、**組首**ヘキ物、
 其未死、**切リ**モセサルニ、**理不**、**後ヨリ**、**数人**立、**目**リ、**切**付セケル、
度ナルヘキ、**ア**、**切**、**サ**、**レ**、**由**、**江**、**中**、**凡**、**子**、**所**、**見**、**石**、**の**、**以**、**評**、**判**、**裁**、**同**
考、**感**、**シ**、**ケ**、**リ**、**石**、**之**、**者**、**取**、**近**、**切**、**野**、**社**、**川**、**田**、**信**、**兵**、**傷**、**ト**、**云**、**者**、**池**、**田**、**家**、**川**、**田**、**八**、**四**
ハ、**去**、**考**、**ノ**、**分**、**孫**、**ニ**、**テ**、**若**、**子**、**孫**、**ト**、**テ**、**心**、**安**、**ク**、**全**、**比**、**ニ**、**候**、**ト**、**云**、**レ**、**コ**、**ノ**、**侍**、**兵**
馬、**多**、**カ**、**逃**、**レ**、**サ**、**ル**、**方**、**取**、**程**、**ス**、**キ**、**テ**、**様**、**子**、**尋**、**ケ**、**レ**、**ハ**、**ロ**、**ソ**、**カ**、**ニ**、**替**、**テ**、**セ**、**シ**、**其**、
前、**夜**、**林**、**七**、**日**、**泊**、**リ**、**當**、**ニ**、**居**、**方**、**ノ**、**次**、**三**、**宿**、**五**、**ヤ**、**レ**、**シ**、**夜**、**更**、**迄**、**物**、**ヲ**、**昏**、**レ**
ケ、**ル**、**ト**、**又**、**テ**、**碓**、**石**、**ノ**、**軍**、**ヲ**、**走**、**ル**、**方**、**為**、**交**、**テ**、**首**、**ハ**、**ケ**、**ル**、**理**、**之**、**リ**、**サ**、**ハ**、**ル**、**城**、**出**
見、**時**、**例**、**ノ**、**由**、**家**、**老**、**共**、**傷**、**モ**、**式**、**其**、**送**、**リ**、**テ**、**カ**、**レ**、**ニ**、**左**、**右**、**ヲ**、**見**、**廻**、**レ**、**其**、**上**、**テ**
家、**老**、**共**、**三**、**所**、**用**、**ノ**、**出**、**付**、**ヲ**、**居**、**方**、**ノ**、**大**、**庫**、**入**、**主**、**タ**、**リ**、**自**、**然**、**此**、**城**、**内**、**ノ**、**夜**、**之**、**也**

二、**ノ**、**乃**、**ル**、**レ**、**ト**、**云**、**ナ**、**ガ**、**ラ**、**景**、**物**、**ニ**、**ノ**、**ラ**、**レ**、**在**、**レ**、**是**、**出**、**主**、**ナ**、**リ**、**後**、**二**、**心**、**付**、**ヘ**、**キ**、**為**、**レ**、
果、**シ**、**テ**、**後**、**家**、**老**、**共**、**立**、**合**、**テ**、**件**、**ノ**、**又**、**庫**、**ヲ**、**再**、**キ**、**見**、**ル**、**ニ**、**際**、**ノ**、**出**、**主**、**ニ**、**家**、**老**、**分**
是、**ヲ**、**見**、**ル**、**ナ**、**シ**、**書**、**ヲ**、**あ**、**セ**、**サ**、**ル**、**ニ**、**ヨ**、**リ**、**外**、**ノ**、**者**、**テ**、**越**、**テ**、**知**、**ル**、**者**、**ナ**、**レ**、**板**、**石**
公、**守**、**殿**、**死**、**骸**、**ヲ**、**該**、**在**、**来**、**リ**、**重**、**ノ**、**屋**、**方**、**ノ**、**人**、**何**、**為**、**見**、**ル**、**ニ**、**イ**、**タ**、**ハ**、**レ**、**井**、**敷**、**太**、**力**、**取**
七、**ヶ**、**所**、**坊**、**後**、**ヨ**、**リ**、**切**、**タ**、**ん**、**疵**、**共**、**ナ**、**リ**、**照**、**揚**、**ノ**、**切**、**光**、**キ**、**五**、**ヶ**、**程**、**折**、**レ**、**ル**、**ナ**、**リ**、**家**、**老**、**ノ**、**死**、**骸**
是、**元**、**齋**、**ノ**、**云**、**通**、**リ**、**杉**、**戸**、**突**、**ツ**、**ケ**、**テ**、**エ**、**グ**、**ラ**、**レ**、**シ**、**ニ**、**ヨ**、**リ**、**折**、**タル**、**ナル**、**ベ**、**シ**、**家**、**老**、**ノ**、**死**、**骸**
向、**ヒ**、**当**、**付**、**花**、**前**、**守**、**殿**、**ト**、**申**、**ス**、**ニ**、**指**、**指**、**ヲ**、**サ**、**ス**、**ヘ**、**ク**、**モ**、**ゴ**、**サ**、**ナ**、**リ**、**候**、**ヲ**、**而**、**其**、**由**、**ノ**、**而**
若、**シ**、**ニ**、**テ**、**所**、**不**、**レ**、**捨**、**テ**、**ラ**、**レ**、**全**、**ク**、**以**、**殺**、**害**、**を**、**る**、**今**、**今**、**難**、**キ**、**キ**、**サ**、**レ**、**形**、**也**、**レ**、**ナ**、**リ**
ラ、**感**、**心**、**ト**、**奉**、**リ**、**生**、**併**、**国**、**ノ**、**存**、**人**、**ノ**、**方**、**ト**、**申**、**シ**、**ナ**、**カ**、**ラ**、**る**、**幸**、**ノ**、**以**、**余**、**ヲ**、**一**、**時**、**ニ**、**捨**
サ、**セ**、**玉**、**ノ**、**而**、**事**、**カ**、**ナ**、**レ**、**レ**、**余**、**ノ**、**可**、**申**、**上**、**様**、**モ**、**コ**、**サ**、**ナ**、**リ**、**存**、**ト**、**テ**、**皆**、**声**、**ヲ**、**出**、**シ**、**テ**
落、**戻**、**セ**、**レ**、**石**、**之**、**者**、**取**、**近**、**所**、**之**、**早**、**ニ**、**切**、**ル**、**由**、**整**、**レ**、**固**、**ノ**、**衆**、**未**、**ツ**、**テ**、**表**、**向**、**哀**、**州**、**ヲ**
固、**出**、**入**、**ヲ**、**改**、**メ**、**其**、**日**、**中**、**ニ**、**引**、**掛**、**ヒ**、**捲**、**上**、**ル**、**ト**、**イ**、**ハ**、**リ**、**或**、**人**、**同**、**存**、**見**、**者**、**殿**、**ハ**、**一**、**社**
ノ、**神**、**ト**、**イ**、**ハ**、**ロ**、**テ**、**モ**、**テ**、**威**、**徳**、**アル**、**ヘ**、**キ**、**人**、**之**、**先**、**年**、**高**、**由**、**申**、**時**、**越**、**有**、**守**、**殿**、**以**、**上**、**以**、**レ**

見
 局

八十景美作守奈備放辟、上ニ忌ミテ企ミテ、秋田至馬込為方トシテ
美作ト破執出末、為事ノ内、京中發劫シ治サレサルニヨリ、兩人ノ者其外ノ
頭ニタル以家奉、其何多汗入、召シ以産後ノ上ニ美作并ニ世傳木切
殿、手車ハ遠為御付ラレテ、上ニテ聖後ノ以家ツフレニ此路、内、右
上ノ石ノ治ニテ、雅談アリシハ、美作守雲ナニ立リテ、手車其ニ美ニ致
後、石殿為ヲナルヲハ、是程ニナラサル先キニ、美作ヲ刺殺シ其牙相、
自然、腕動シツコリ、不意、對シタル變ニテハ、聖後書殿、以家別奈ナカリ
べシ、以方方トナリ、我ヲ立テ、逆敵ヲ振ス、美作ヲ切テ為サントスルニ依テ
ナリ、以者サ、居るバ、此家此國、お倍ス、此者アリテ、危シト見、タルニハ、主人
ハ、忠勤ニ我ヲ指シ、指シ奉ルヨリ、外ナカルべシ、馬ノ先ニテ討死ヨリモ
主人ノ為メ、國ノ為メ、大志ハ、既ハ今川氏某ニ、三浦右衛門武田勝頼、
長坂長岡ニ、其外五ヶ所、大敵ニ、敵ニタルハ、皆、忠信ノ臣有テ、ソレヲ主人
用ニ玉フ故ナリ、然レトモ、其者ヲ殺ス時ハ、当分主人イカ程惜ミ玉ヒテモ、死セ

第一

此考ニ交来、重テ石極、亦上来ル氏間有ヘシ、其因ニハ、主人モ合造、コノ
レ、至リ、ニ我ヲ指サルニヨリ、御為方トナリ、氏、聖後殿、以家ツフルニ、ニテ
有ベシト宣シ、誰モ口ニテハ、金言妙、勿理屋ヲイ、トモ、言行一致ニ、其ハ
稀也、石見守殿ハ、其評判言、景、お連ナレ、其忠ノ至リ、大對夫信士成
ベレ、其人ノ言、美、言、ナリ、所ナリ、其ハ、美、ヲ、殘、多、ク、追、テ、出、ス、ト、イ、ヘリ、
一、稱、葉、石、見、守、殿、於、殿、中、堀、田、前、守、殿、ヲ、殺、害、有、シ、其、始、終、ノ、因、
ニ、石、見、守、正、休、ハ、伊、勢、守、正、能、ノ、嫡、男、ニ、テ、始、ハ、權、之、助、ト、云、五、千、石、ノ、家、
督、ヲ、得、テ、程、百、テ、御、小、姓、組、番、以、後、任、事、院、番、以、以、後、琴、其、後、御、
休、衆、ニ、仰、付、ラ、ル、其、身、行、政、ヨリ、篤、美、成、故、也、殿、有、院、殿、事、鑑、ト、所、
持、一、延、享、六、年、五、月、八、日、御、他、界、有、テ、新、將、軍、派、去、ル、勤、任、所、昔、
叶、二、千、石、御、加、増、在、シ、其、後、又、五、千、石、以、加、増、一、万、二、千、石、天、和、三、年、
三、月、若、年、寄、仰、付、ラ、レ、以、勢、首、尾、能、繼、任、有、シ、二、貞、享、元、年、八、月、亦、八、日、
殿、中、テ、堀、田、前、守、正、復、ヲ、刺、殺、シ、其、身、モ、即、死、ス、其、孫、子、ヲ、聞、ク、

御礼日、改諸大名諸役人多城以礼始ニルヘキ、少シ前テ、筑前守殿
其外御老中不^レ殘^レ御揃著^レ望ノ吹^レ布見守殿前守殿、少シ得御
意度生^レテ、呼立極^レ方、縁例、布見守殿先達^レヲ行^レキ、筑前守
殿中^レ五^レ六^レ有^レ事ニヤ^レ宣^レ之^レ所^レヲ、用有^レリ^レ之^レ例、ヨリ寄^レリ、別^レノ^レ也^レ
テモ^レハ^レス、所^レ為^レニ^レタ^レト云^レナ^レカラ、一尺三寸ノ照指茶房ノ^レ也^レナ^レダ^レレ^レラ
物ヲ以^レテ、胸ノ边^レヲ^レ差^レ通^レシ、後^レ、杖^レ戸^レノ^レ也^レト^レ押^レ付^レ玉^レフ、筑前守殿^レア^レリ
ノキニ返^レリ^レナ^レガ^レラ、布見守殿^レカ^レト^レ宣^レヒ^レケ^レレ^レハ、何^レ、乱心^レ所^レ為^レニ^レオ^レト^レテ、エ^レッ
リ玉^レフ、惣御老中ノ^レコ^レザ^レ所^レヨ^レリ、見^レ止^レ所^レ故^レ、其^レ侍^レ大^レ久^レ保^レ加^レ聖^レ守^レ建^レ朝
戸田^レ中^レ守^レ忠^レ昌^レ所^レ和^レ皇^レ後^レ守^レ正^レ武^レ何^レ汝^レ走^レリ^レヨ、布^レ見^レ守^レ殿^レ後^レヨ^レリ^レヤ
舟^レ玉^レ初^レ太^レカ^レハ、筑前守殿^レ由^レ也^レニ^レ布^レ見^レ守^レ殿^レ振^レリ^レカ^レリ^レ見^レテ^レガ^レ笑
ニ^レラ^レ前^レ少^レシ^レモ^レウ^レコ^レカ^レズ、筑前守殿^レヲ^レ利^レ通^レシ^レガ^レキ^レス^レメ^レナ^レガ^レラ^レ果^レ玉^レヒ^レ又
殿中^レニ^レ又^レ傷^レハ^レ先^レ中^レ方^レ所^レ立^レ舍^レノ^レ差^レ故^レカ^レタ^レリ、何^レ、乱心^レ所^レ為^レニ^レオ^レト^レテ、布^レ見^レ守^レ殿^レ後^レヨ^レリ^レヤ
乱心^レ侍^レリ^レ也^レ前^レ守^レヲ^レ教^レ善^レ仕^レル^レ布^レ見^レ守^レヲ^レハ、何^レ、乱心^レ所^レ為^レニ^レオ^レト^レテ、何^レ、乱心^レ所^レ為^レニ^レオ^レト^レテ、

少^レ違^レシ、差^レ誤^レカ^レズ、^レ而^レ人^レノ^レ死^レ、後^レ、子^レハ^レコ^レヨ^レリ、^レ上^レ也^レ、筑前守^レ殿^レ死^レ、輝^レ三^レ地
田^レ村^レ馬^レ守^レ竹^レヲ^レ出^レラ^レレ^レケ^レル^レト^レナ^レリ、^レ上^レ也^レニ^レモ^レ花^レ初^レ守^レハ、瘡^レ治^レツ^レテ^レシ^レキ
ヤ^レト^レアリ^レシ^レト^レシ、其^レ日^レ殿^レ中^レ、珍^レ物^レト^レ云^レハ、此^レ也^レ、^レ而^レ天^レ老^レ死^レ去^レリ^レカ^レリ
所^レ誤^レハ^レナ^レシ、但^レ、而^レ成^レ退^レ出^レハ、清^レ子^レ乃^レ著^レ以^レ故^レ例^レヨ^レリ、^レ而^レ退^レ出^レカ^レリ^レト^レ

一石見守殿懐中書^レ主^レ前^レニ^レ在^レリ
慶長大坂以來、國家治リ、天下一統ニ所^レ神^レ謚^レ改^レ大^レ小^レ名^レニ^レハ^レ名^レニ^レ家^レ督
其^レ器^レニ^レア^レタ^レラ^レム^レト^レ号^レト^レモ^レ代^レ、相^レ續^レシ^レテ^レ内^レ外^レノ^レ用^レ事^レ仕^レ主^レ守^レモ^レ家^レ老^レ後^レ人
ニ^レ仕^レセ^レテ^レ差^レ濟^レタ^レリ、其^レ器^レ量^レアル^レハ、稀^レニ^レレ^レテ^レ家^レ風^レ衰^レハ^レ杉^レ形^レニ^レハ^レ戦
國^レニ^レハ^レ其^レ器^レ量^レカ^レモ^レ其^レ器^レニ^レア^レラ^レサ^レレ^レハ、國^レヲ^レ割^レリ^レト^レラ^レレ^レ家^レヲ^レ潰^レサ^レレ^レル
事^レ眼^レ前^レタル^レニ、嫡^レ子^レ其^レ卷^レニ^レア^レラ^レケ^レレ^レハ、ニ^レ男^レ三^レ男^レ乃^レ至^レ末^レ子^レニ^レテ^レモ^レ器
量^レアル^レヲ^レ見^レ立^レ家^レ督^レヲ^レ讓^レリ^レ物^レ願^レニ^レ立^レル^レ故^レニ^レ次^レ弟^レニ^レ秀^レル^レト^レモ^レ杉^レ形
ニ^レ衰^レル^レ事^レナ^レシ^レタ^レト^レハ、松^レ平^レ御^レ老^レ祖^レ三^レ洲^レニ^レ御^レ坐^レノ^レ時^レ三^レ河^レ守^レ恭^レ親^レ御

岩津城ニ二男和泉守信光仰ヲ入シキ。養親師ハ足崎ノ城ノ御
坐アリ。嫡子松平太郎左エ門尉信廣師ハ松平ノ御ヲ讓リ。二
男徳川和泉守信光ハニ系親ノ家督ヲ讓リ。二男ヲ以テ惣領
トナサレ。是武ノ御卷量アルニ依テナリ。三男ハ遠江守益親四男出
雲守家久五男ハ本守家私六男任中守久親也。又信光ハ二男
女所子四十八人アリ。トニ嫡子左京亮守家竹ノ若ト云。二男在系亮
親史岩津ニヨキ徳川ノ惣領トシテ家督ヲ御讓リ。三男三郎良
龍四男佐原守貞。嗣形ノ原ト云。五男大膳亮光重。出崎家ト云。六男
八郎石原尉光榮。七男強之郎元芳。五井ノ深溝ノ祖ト云。八男ニ即左京
尉光親。野見ノ師九男美作守家勝。十男修理親正。此外不遺記。親
忠師ニ息男九人有。太郎親長岩津ヲ領ス。二男松平源次郎兼元。後
ハ岩守大治家。三男徳川次郎長親。此長親ニ家督ヲ讓リ。惣領トナ
シ。五ノ後出云守ト云。四男松平玄蕃元親。房五男。起誓上人。京智恩院ノ

位持六男松平刑部直親。先七男。本清左衛門長家。八男。松平母助。即
私忠。後在系亮九男。加賀右衛門尉兼清。瀧昭ヲ領ス。御ニ男。御ニ男。
ニテモ武勇。知謀スリケタルヲ其若トシテ家督ヲ讓リ。惣領トナサレタルニ
ヨリ。次第ニ御後光有テ。武卷盛ニシテ。清康公廣忠ト家康ト。御ヲ讓
ニ家督ヲ讓リ。惣領ト立ルニ。戦國治國用。信可有事ノ。井伊兵部
少輔輔直政。家督嫡子直勝。譲リ。和鏡アリ。レニ慶長夏陣ニ直
勝病方タルニヨリ。弟楊部直孝。其比ニ一萬石ニテ。大番改ナリ。レニ直
勝陣代トシテ。後継ノ人数ヲ牙シ。冬陣改ヘキ昔。房ニ奈シテ。供。仰付テ
レ。車奉御先手ヲワラナレ。大キニ戦カアリ。其後十八萬石ヲ三萬石。在
大夫直勝ニ分下サレ。十五萬石ヲ直孝ニ下サレ。五萬石ノ所ガ増アリ。其以
後秀忠公家光公ヨリ。御カ増有テ。直孝三十五萬石ニナリ。五ノ戦國
ニ。子共。器量次第ニヨルベシ。治國ニテ。是。タルハモナキニ。其器ニアラズ
トテ。嫡子ヲ押退ケ。末子ヲ惣領ニセン。是モ改難ク。是ナレバ。惣領ヲ物

見

願ニナサル莫大名小名共ニ尤ニテ余義モナキ御事ニ諸家ノ家老後人モ
 右ノ前以テハ知恵取覺テ或モ勇臣ニ毎夜憂テ宿テ善惡限前ニアラハル様
 ナル者ヲ用テラレ其着ニアラサル者ハ一日ニ務ルヘナラズ若シ物奉リ末ニノ
 後人ニテモ其通りナルニヨリ万事此ガ廻リシニ當時治國ナレハ家老ノ子ハ
 生レナカラ家老ニ代ニ家老職ヲトメ其外ノ後人モ竹助目格正ヨ以テ之付ラ
 ル是又在ヨフアルベキ事ナレバ主人モナカルベキヨラテし仍之段ト下形杉ニナリ
 家中風俗モ要シクナルヲ及サル必ナリ右ニ云藝者杯ハ其親ノ器量
 アラハ末子タリ心入ヨク其藝ヲクヌルヲ惣領ヲ立家傳ノ藝ヲツカ
 スベキ者ニ文筆武藝何事ニテモヨキトヨクナキトハ報前ニユル事一
 ニ其ヨキヲ用是レヨ立ル時ハ其藝杉形ニハナルニレキニ是ハヨヤクノ
 男ニテ只今モ旬由ナル事ニ奉ム人ナラハ主人ノ教モ浪人ナラハ猶心込
 ヲクノハ之を致タラハ二男三男カモ情出ニ惣領ハ弟ニヨサレント勵ム
 ベシ何角ニ付テ其藝杉形ニハナルニレキニ家傳ニモナリ我一代ノ

藝ナラハ成合ニニテスヘキ也トイハリ

藝見

警
見
局

警
見
局

警
規
局

警
規
局

學庭志叢

〇 以厚角囊之比及宋手足皆見

〇 中軍下軍爭舟舟中之指可掬

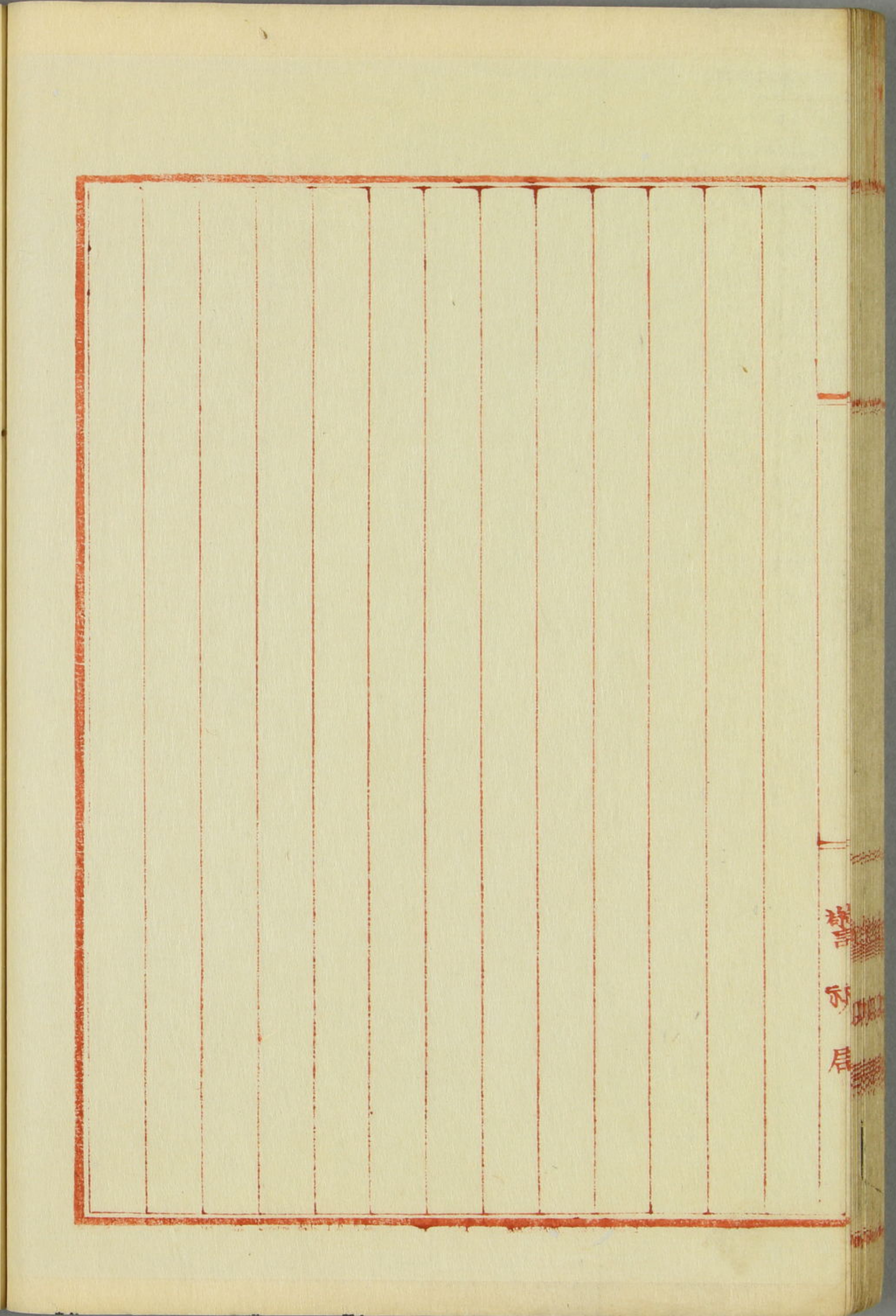
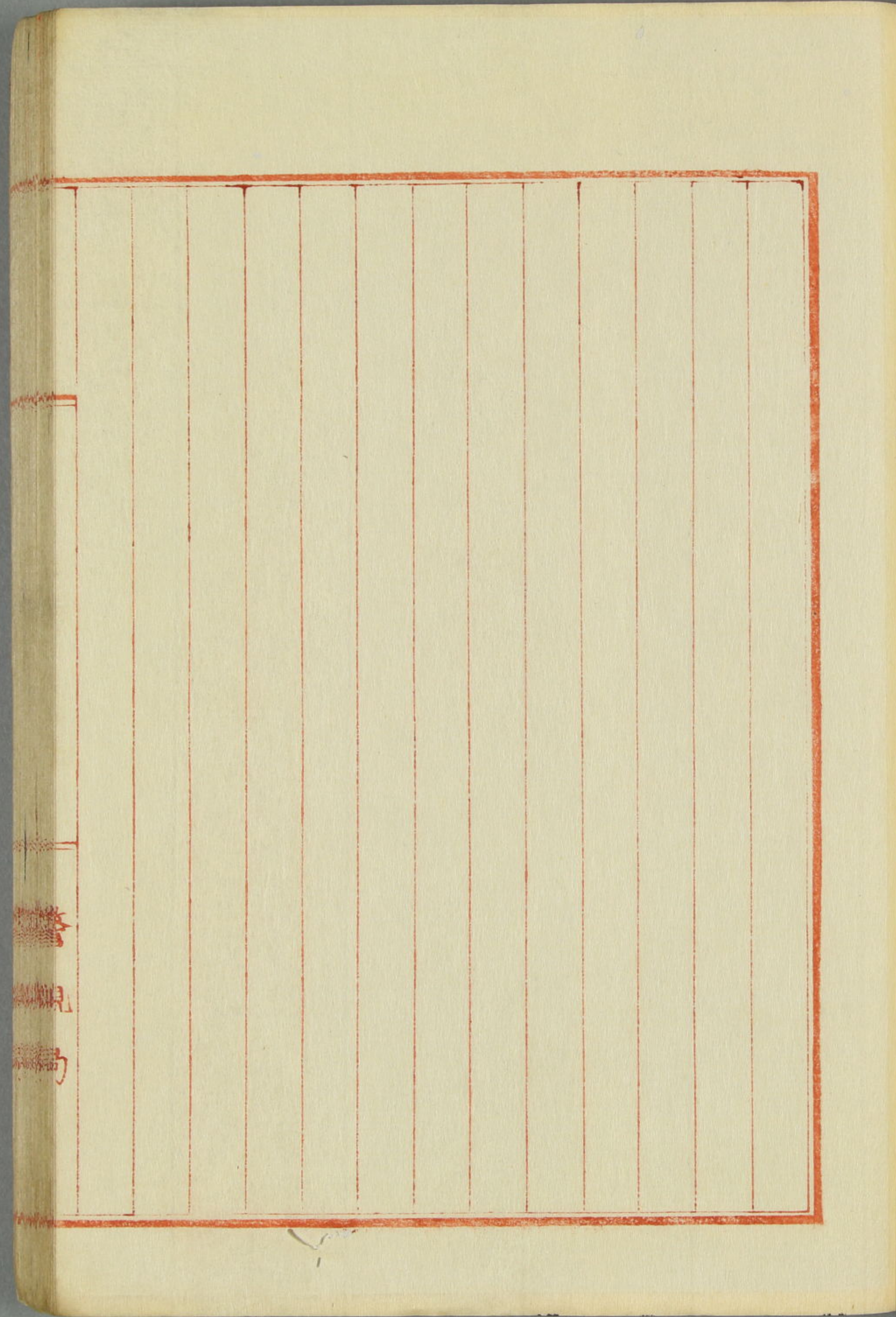
玄虛 云云

蛤蚌一 東坡嶺南詩二箱涼初吹蛤 柳老才中夏又朱棹詩二
稱厚群蛤大草勝一器流

宋南宮長萬其君曰殺之

晉楚師合戰晉大軍敗云

卷四



卷
第
一
册

抑竹雀、紋、元来、杉家、紋、二、伊達、紋、三、段、預、ナリ、然、レ、
 彼、紋、ヲ、用、ル、ハ、平、宗、先、祖、大、藏、左、衛、門、尉、足、利、三、十、代、後、原、
 伊、達、左、京、大、夫、藤、原、植、宗、ノ、母、ハ、越、後、ノ、国、主、上、杉、貞、實、ノ、
 娘、ニ、彼、貞、實、ニ、合、婚、シ、テ、其、子、伊、達、植、宗、ノ、六、男、五、子、ヲ、養、子、
 ト、シ、因、テ、藤、原、ノ、植、宗、ノ、契、約、ニ、依、テ、其、子、美、基、幸、徳、見、長、
 光、ノ、太、刀、ニ、家、紋、竹、雀、付、シ、幕、子、孫、ハ、伊、達、五、郎、ヲ、改、メ、杉、
 兵、部、大、輔、美、光、ト、号、シ、備、天文、十、一、年、壬、寅、六、月、廿、三、日、吉、辰、故、
 越、後、一、封、ニ、充、リ、其、用、意、在、於、二、又、子、間、諺、ハ、義、有、テ、同、中、駑、切、
 ニ、終、テ、越、後、不、封、美、光、一、信、夫、稱、大、本、社、ニ、誓、居、ス、然、レ、モ、約、子、
 不、愛、シ、實、ノ、字、ト、号、シ、故、竹、雀、ノ、家、ノ、紋、ト、ス、其、後、兄、ノ、清、宗、
 望、云、故、ニ、美、光、兄、一、讓、ル、夫、コ、リ、惣、領、家、ニ、竹、雀、ノ、家、ノ、紋、ト、
 入、ル、

上杉景勝傳

上杉景勝者、長尾越前守政景子而謙信外甥、謙信善為子、謙信
 逝後、亦三郎景虎、守其家、嗣、戰、伐、不、止、諺、曰、陽、土、詐、屬、麾下、逆、按、
 景虎、既、逝、後、其、子、時、備、五、老、三、友、官、立、中、納、言、ト、シ、ト、
 奥州會津若松、城、百、二、万、石、余、ノ、領、主、抑、景、勝、先、祖、ハ、桓、本、末、皇、
 リ、五、代、鎮、守、府、將、軍、平、康、文、ノ、末、葉、良、文、ヨリ、六、代、藤、倉、重、平、
 太、房、文、息、權、五、郎、景、正、カ、末、葉、權、宗、ト、シ、其、子、ヨリ、九、代、目、長、尾、
 景、守、者、景、ト、云、フ、此、ノ、二、男、ヲ、長、尾、平、藏、景、虎、ト、号、ス、此、姓、藤、本、
 也、二、故、ハ、又、平、杉、ト、稱、ス、ル、ハ、天、文、廿、年、ノ、比、藤、倉、ノ、管、領、上、杉、
 重、本、末、藤、原、重、政、ハ、相、向、ノ、北、條、左、京、大、夫、平、氏、康、ノ、數、年、同、
 子、弟、ト、終、ニ、戰、ヒ、及、テ、上、所、ノ、引、入、ケ、レ、モ、北、條、ヲ、打、テ、跡、ヲ、景、ト、
 ケ、ル、故、ニ、重、政、上、所、ニ、七、居、任、テ、ラ、ズ、越、後、一、逃、下、リ、長、尾、景、虎、
 一、向、ノ、報、シ、ケ、ル、景、虎、代、上、杉、ノ、家、也、貞、男、景、虎、也、重、政、景、虎、也、此、上、ノ、

高良王命言 新佐理師ノ事 第九十條ノ事
西遊記ノ序 曆城ノ事 七ノ事 西ノ方ノレロコト云々 仰テテテヨカト云
テテテテテ 槍ノナリ 未リ 任シテテテ 燦ヲ送ル 土紀ヲテヨカト云

高良王命言 新佐理師ノ事 第九十條ノ事
西遊記ノ序 曆城ノ事 七ノ事 西ノ方ノレロコト云々 仰テテテヨカト云
テテテテテ 槍ノナリ 未リ 任シテテテ 燦ヲ送ル 土紀ヲテヨカト云

高良王命言 新佐理師ノ事 第九十條ノ事
西遊記ノ序 曆城ノ事 七ノ事 西ノ方ノレロコト云々 仰テテテヨカト云
テテテテテ 槍ノナリ 未リ 任シテテテ 燦ヲ送ル 土紀ヲテヨカト云

五月廿七日 武
日勝頼 遠方
高天神ノ
城ヲ圍ケテ
將少弐大助
長忠勝頼助
カテシテ陰ヲ
レム勝頼共ヲ
引テ成ニ入ラシム
長忠勝頼有命
信美本之長
跡ニテ斐レテ
吉田城主
酒井史次

五月廿七日 武
日勝頼 遠方
高天神ノ
城ヲ圍ケテ
將少弐大助
長忠勝頼助
カテシテ陰ヲ
レム勝頼共ヲ
引テ成ニ入ラシム
長忠勝頼有命
信美本之長
跡ニテ斐レテ
吉田城主
酒井史次

和
信
高良王命言 新佐理師ノ事 第九十條ノ事
西遊記ノ序 曆城ノ事 七ノ事 西ノ方ノレロコト云々 仰テテテヨカト云
テテテテテ 槍ノナリ 未リ 任シテテテ 燦ヲ送ル 土紀ヲテヨカト云

家原百人

初教伊奈因
本如子房勝

ツラツし其ま在
子母タニリ

抑誘紙

直江四郎

秀持野

初歌多人の心を往と那末其歌の事河城
往とて、とらつた、と、茶を、多、茶を、目、子、え
ゆり、鬼の、如、房の、鬼、人、ま、く、心、を、和、ら、く、新、板、也
沙、衣、と、画、師、と、修、え、ぞ、人、ま、ま、ま、ば、然、然、智、恵
州、城、で、も、ある、階、階、で、も、形、く、仕、振、本、の、乃
中、中、の、智、恵、思、瑞、折、鏡、ら、傳、して、え、き、ば、あり
と、影、を、云、の、心、の、通、り、志、た、よ、は、の
道、と、し、た、く、く、後、用、い、さ、や、あ、く、海、乃、晴
行、後、の、海、の、中、の、水、と、云、角、暮、里、谷、宿

式部女藤氏、父越前守為時、乃閑院冬嗣、女侍上東
后、母源氏、編子、於言中、後高、右工、門權、佐藤直孝、而
大戴女、吸、子、三位并、烏、号、十、式、部、撰、衣、衣、卷、為人、有、才、能、善、属、秘、文、下
另有源氏五十四卷

武野紹鷗号一閑居士始号新五神仲枝叙從五位下任同播
 磨武田伊豆守源信光之後之精宅於四條戒堂之隣扁曰
 大黑庵蓋國俗合祭戎大黑二神于一檀今以吾居並戎堂而標
 是名也學和歌於西条道建公又善時好點茶會而得宗陳
 宗恪二居士俱是宗祖之傳後移左海肆歸依善通國師以
 參禪為務禪餘煮茶待法友一時仰其風流而稱茶家宗
 匠永祿元年庚申築于南宗寺子宗丸孫宗朝公出家師事
 沃菴和尚後還家節于肅良侍於尾張君授泉州二師乃
 笑巖遺業及淨菴年後而行于世始紹鷗稱武田氏時畧以
 曰信玄威名改武野氏有歌曰太祢麻茂天於奈老太計大
 乃寸遍奈礼度安礼天曾以麻和野登宗利仁計道
 道陳左海人其先居舩舩北向家因以北向為氏善茶會而與

江鷗倅名鷗漢茶家推陳為師一軌參禪善通國師外復
 南宗今并久号壽林左海人紹鷗女婿二任大關食俸三
 千石擢大藏御法印善茶會而與宗易宗及被稱三
 近入下法和尚室參禪有年男宗量号天外之量永正
 年建仁東照宮食一十三百石左海福江不量今号二卷今并
 氏所建二

宗易利休初名十郎左海人扁其所居曰地盤齋後改不齋
 齋參見市法和尚究明心要頗有省發其年捨資財架閣於本
 寺三門上築道新草及十木羅漢彫像本邦三百年未有點茶
 會之法而行于世其說茶味禪味三道情清是一不是陸羽所
 嘗正日也可矣然而點茶之法曰能和能敬此法至利休
 大備矣上自王公下迄庶人習尚成風而不從受於此為賦而
 天子賜利休居士之号量君封三千石之地褒其夙雅而

卷一

來因茶冬我禪者亦不鮮矣。滿生氏仰細川三齋百田休部
勢田掃部多是利休下人。茶之天正十九年二月廿八日依夏上評
之倡自尽。葬開山祖塔例。其子道菴小菴孫宗且相誦能茶
事。

初谷宗便死前乃多人家富而好茶事。常參普通圓師。初仍弟子
某年百田和向為宗易剃髮授与法名宗湛。陪其席。此乃
得度供養之式。宗易所筆記。湛藏之。子孫至今。室祇遺以
能茶。夏倍量。亦茶會。

津田宗及号天信。左海人。以能茶會。而与利休侷名。仁豐君會傳三
千石階法林和尚。

山早宗與左海人。松永彈正彌名孝子。左海中國氏信吉。其養左
己子以能茶。夏倍量。仁豐君。

敬
見
高

公文（せん）とは是は往古公家衆の庄園（後知あり）にありて後所を
公文所と号す。名残あり思ふに上、道達する公文を宗と
掌る世々の名ある。一、叔其職の人の役名を單は公文と
至其給分の田地を公文給と号す。一、のあり又公文名
くせん（せん）と号す。地九の。大平記の十名道夜物後公文
と号す。と号す。い。と号す。あり。

源倉の付割り。一、庄。殿家と地殿（殿）とあり。殿家
とハ殿主を言ふ。乃公家衆なり。地殿とハ武士の殿と
退補を言ふ。これ。こも。後（後）の打ちきあり。其願家の吏公
丈と号す。地頭の下吏をり。と号す。と号す。

此公文とハ公文人あり。かくあるは公文とハ所殿の地を後を
政所あり。後世より後所あり。こは。手。持。と。号。す。の。

後所（し）は似し。而も。字。も。公文。と。号。す。あり。これ。は。賭。弓。の。中
り。を。つ。れ。を。持。する。所。を。言。ふ。と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。
坊の中り。と。号。す。所。を。言。ふ。と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。
と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。

これの。と。号。す。に。民。の。名。を。言。ふ。と。号。す。と。号。す。と。号。す。
これ。本。書。に。あり。と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。
所。を。言。ふ。と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。と。号。す。

庚申雜錄

一月七日江戸高輪高野寺跡初平

該寺、住居西臺利加人生國ハ能分侍老門前ニテ某ノ為ノ指殺

ナル

將軍家元
乃代

一又丹陽修政事 寛永十六年又丹宗禁制天和元年

陽修政事年止 亦年未述 八十年ニ成

一西臺ヤ知ノ海之人數

洲國ヨリ

新ニ遊者有

物由ヨリ

初ヨリ 吉村拒送以

有以軍遊者 木村松澤ヨリ 栗遊者ヨリ 却定ヨリ

森田五郎 泷田ヨリ 中井 日ヨリ 遊者

長方 瀨善四郎 依友

概太郎 日高圭三 舟合醫師 宮崎立元 堀原

重五郎 西番外科村山伯元

近藤重藏ノエトロツフ事

日本ノシヤモロロヨリ 子付 八カケ 米 アニ

メノ アジヤツフ 子付 子付 子付 子付 子付 子付 子付 子付

藤織 アツレ

後
見
局

>

94

收
期
局

梅
香
居

信

正信偈 速入寂靜 為示必以信心為能入

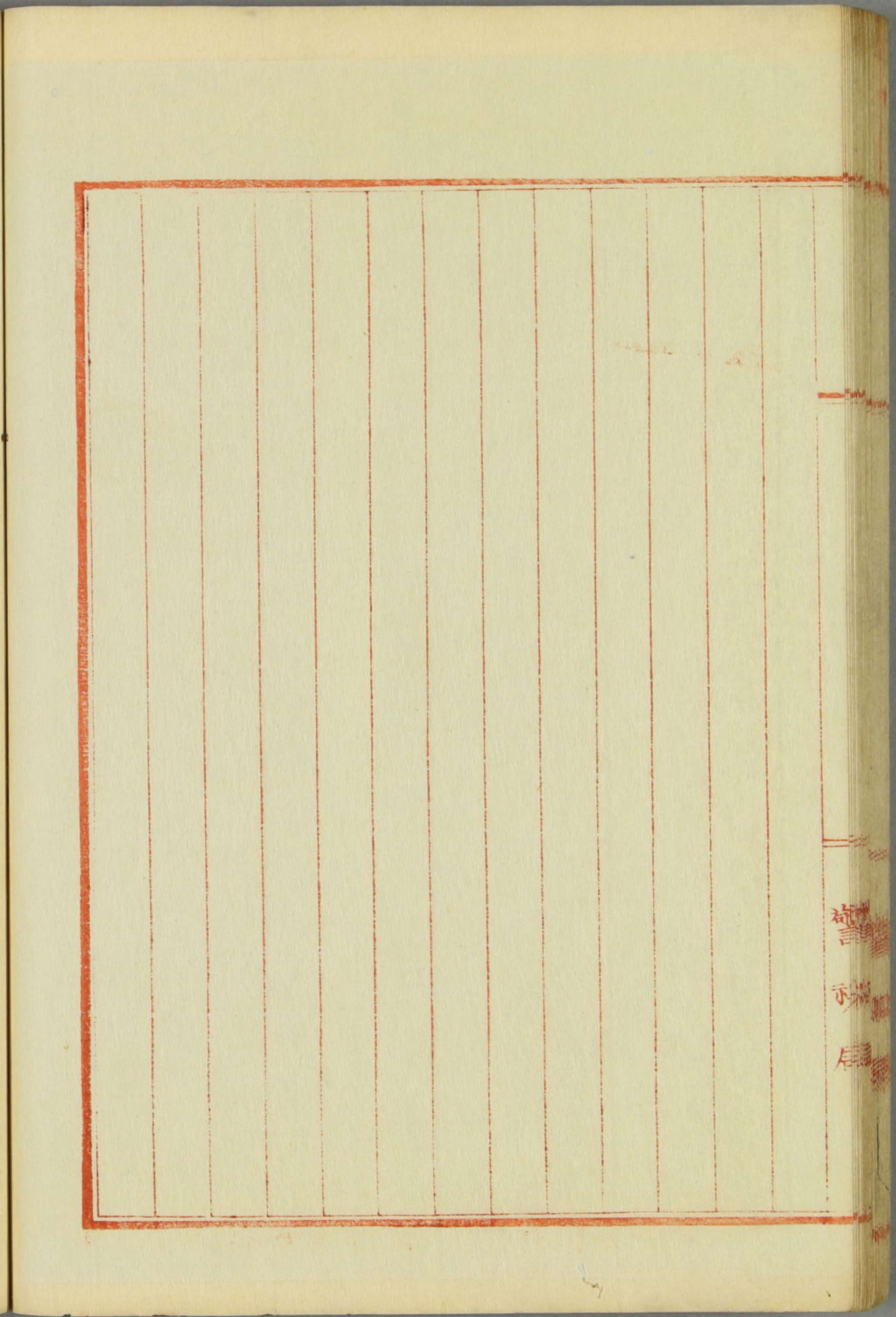
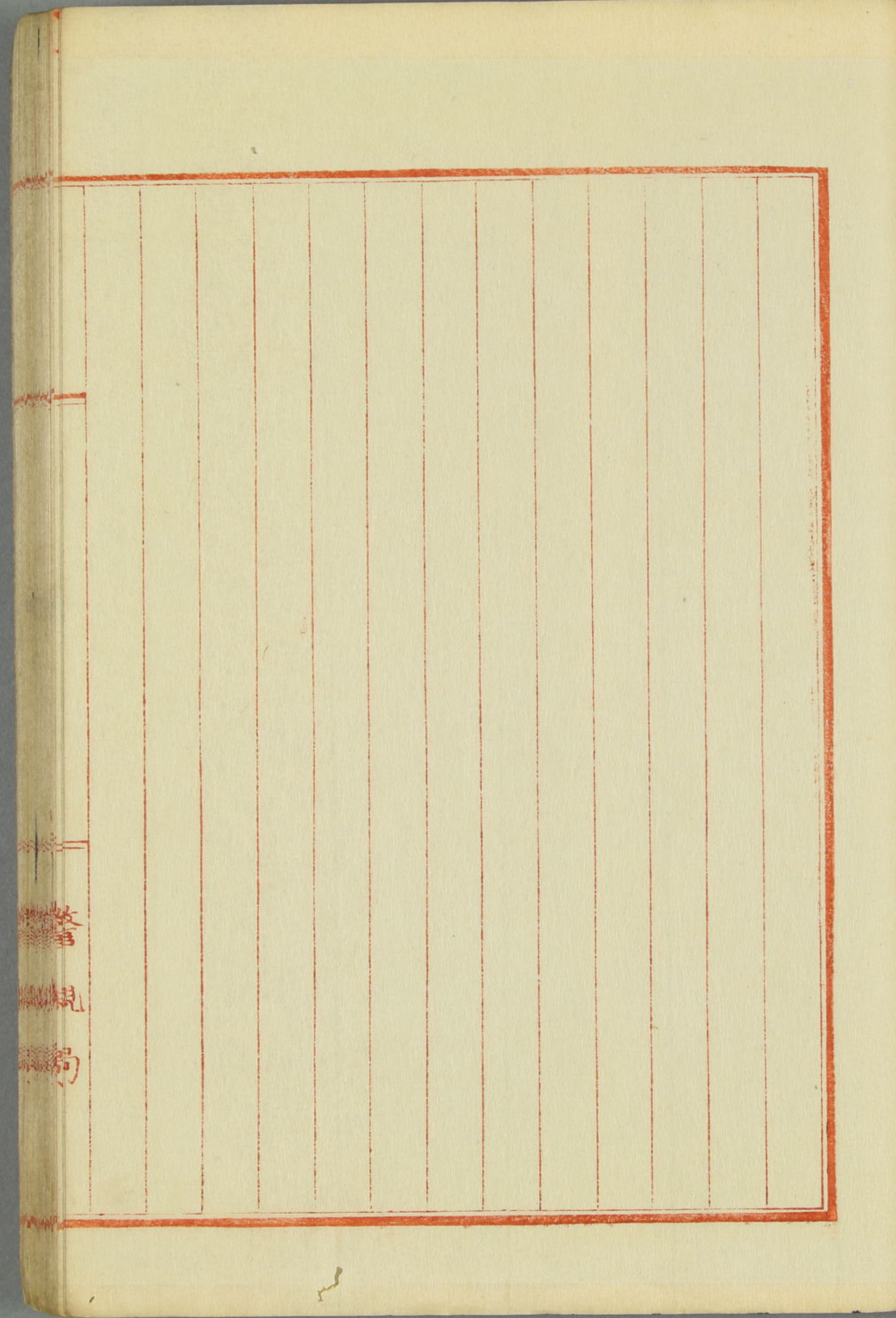
大論 信為道元功德母

菩薩修行ノ五十二段ノ階級ノ中ニモ十信ヲテ先初位ガ信

ナリ十位十行十回向十地ノ次第ニ昇進スルモノナリ信以

上ヲ内凡ト云ヒ信以下ヲ外凡ト云

教書
規
局



敬
見
弱

敬
見
弱

僧

本光國師 芝切通全知世院ノ開祖以心宗傳長光ハ徳川家
康大坂攻ノ軍師トシ且政度ヲ補翼カレテ以テ天下僧
録司ト仰カレ本光ノ号ヲ賜ハリタリ

道元律師 明治十二年二月二十三日朝廷ヨリ承陽大師ト

證号ヲ宣下セラレタル

親鸞上人 見真大師ト證号ヲ賜

大ハ大多勝ノ三教ヲ合シ〇衆ハ通載ノ義ナリト衆ハ心性ニ具
足シテアルヲ用ニ業シテ一門ノ衆生ト共ニ如來地ニ至ルヲ云フ
我全國寺院ノ數凡一萬三千百有餘
八万四千ノ法門ト云フノ數千四百餘卷ノ經アリ

事藝志

忠信僧却ハ源信の妻あり元亨初ハ源信傳曰姓ト白和州
葛米郡ノ人也蓋仁元年六月十日寂滅七十六也袋草紙
曰忠信却ハ和歌ハ狂言濟詔ナリトテ護ニサリケル忠信
院言明ケホノニ湖ヲ叱シケルハ沖ノ舟の羽をヒラ
或人流行ハ和歌の流の白波と云々後ノ者ヲヒラケテ
て妙歌ハ紀元ノ和歌ニありぬハカリをヒラケテあり
之ハ一代一首の狂歌ト云ハ

鏡山人の志望クハさき又ク我々のよハクノコトハ
花山院ノ時中納言義傑ハ家教ハ忠信に任テ後

定家ハ心ハ墓ハ觀ハ定龍ハ燈ハ石ノ邊ハありハお侍ハ原定家
一ノを山ハノ後後ハの石橋ハを建シテ定家ハハ五條三位
俊成ハの男ハ和蘇門ハノ号中具ハの教ハ仙仁隆二年八月

定家
心墓
觀
定龍
燈
石ノ邊
あり
お侍
原定家

二月卒之歳八十二法名明靜

道教坊。東塔南谷ニ何リ是法性坊也。意ノ旧跡

之旨教之曰。曹意。姓丹生氏。平安城人。其无應神天皇

之胤。元慶三年。上台山。延長八年六月。戸部尚を藤原

尚之石中丞。子布世二人。於清涼殿。逢雷震。死。白鳥

惶怖。不體不豫。乃移常止。意殿。召意宿禁中。持念

初意。在獻山。一日。曹意相化。末曰。我已得梵釋。計与

欲償。風對心。師道。勿拒我也。意曰。然。一才土者。皆王

臣也。我兼皇孫。何所碍乎。曹作色。高。葛。栢。榴。曹

上。而。起。化。作。鳩。坊。戸。烟。騰。意。結。陽。水。即。擬。之。其

火。即。滅。境。底。尚。在。焉。已。而。曹。靈。踏。石。登。天。云云

曹之若一語者。コ思テ。云。死。カシ。ナレ。ト。云。ハ。勝。有。時。云

曹根定國。ハ。ナル。可。キ。何。リ。モ。答。活。契。帝。也。云。云。云

聖之記之。慈観和尚の旧跡。今の青蓮院云の。史を録

ノ。所。跡。の。東。ま。ま。今。也。西。房。ハ。近。年。と。あり。云。云。カ。カ

所。有。ノ。野。仙。ノ。礎。ノ。一。海。畔。リ。此。ノ。所。也。西。リ。法。師。ノ。杖

た。乃。梅。花。石。ノ。理。木。ノ。名。を。の。こ。れ。あ。な。れ。さ。よ。と

ナ。古。ノ。思。ひ。か。せ。一。子。は。危。上。よ。今。こ。れ。西。リ。東。國。似

リ。引。ま。け。り。よ。云。云。意。を。ま。り。云。云。南。リ。初。高。代。お。こ。て

あ。つ。り。あ。ゆ。ク。石。所。初。後。の。と。ま。あ。士。の。諫。へ。た。ま。と。云

ありけり云云

強河ある。富士の烟の空よさ。下り。舟。も。あ。ら。ぬ

我がまゝい。と。了。了。ら。ま。初。當。風。よ。あ。い。く。の。云。云

め。ゆ。ま。と。阿。り。云。云。名。を。と。く。あ。ま。り

撰集奈覽之事

名月記大治四年四月廿二日

君も忘れぬよとりをりしむれ杭こるまほのいぢり

あふく心

長歌短歌旋頭混存

古今徐林抄曰

長歌五七逐次逆唱此及情尽以七言二句收拾面終
長短隨其體裁短哥者對長之謂也祇是三十一字而已旋
頭者與儀抄曰古今以旋頭和換頭古本或旋作換耶詩
有換頭作法非今義旋迴也凡和歌言上句為頭言下
句為尾旋頭製五言或七言一句加下句初上下各三句
相伴故呼為旋頭續成或各双本上下亦曰本末故有此名

其義々旋頭曰混本三十一字詠闕終一句曰所御名混本
未詳 旋頭哥ノ事

新和撰和哥集云權中納言過後かつらのあそび

旋頭奇讀をくりやるよよ良力ツをよめる

此れあそびをのいありし我らひみ 俊れ御臣

ゆゑあはのいさりをもたくりのをよ

面おもたる

あまのまうてきて旋頭奇讀をよる旋力ツをよめる

あそびはあたらぬいし神もあはれりをきけりはあそびの

あそをかきあ

後言 見 局

定基他返卷云

拾芥抄 上末云

後選集 上中下 千四百亦云或千三百五十六云

部之秀 上中下 夏秋 上中下 冬 自一至六 報 自一至四 別旅

賀裏傷

天曆五年 辛酉十月於梨壺以花人少收伊予為和歌
所別當和歌所根元是也能宣元輔順時文望城号

撰云

十叟和哥事

後京極殿攝政

地標りある火しと川の流も流れていくと送ぬたうた
よめやし

拾芥抄

拾芥抄

外教信徒

東京関八州ノミミテ信徒六万二千七百人洗禮ヲ受テ
心者 九千三百十一人

寛永七年林道孝信勝ニ思慕シテ尋聖の地を尋ヒテ京營有リ
テ其母金方五下ニ流日九年屋敷大御前義重ニ信勝を譲り
聖廟を遷遷するの聖像を以テ教習思慕の像代あま
かのつと信勝ノ先聖像の三大尊成書して掲置しめ此後若
と寄附してこれ信勝をまた文庫を建て群衆を養め画工命
河原乃像を彫りしめその教を充つかくるの廟御殿を備へて
二年本院の修めありぬり又十年二尊行修し之釋菜を以テ
其の四月公家慶山信勝ののくと其の先聖像之主を
聖像を御院一尊に信勝に布し之を其を講め

カノノ古より知らるる兄弟喜信澄ニ是時取つけりも廿二日
二月降向方御之家其の事を知りて之を以テ其の父
孔子乃信に建て信勝の而是とありり其の父は存元様
聖廟を御院に後とせぬ其の事を以テ其の父は存元様
此より官字を以テ其の事を知りて其の父は存元様
此故制を以テ其の事を知りて其の父は存元様

寛政十二年六月の刊より大御前義重に御記の事信勝編輯
考永の系譜ハ寛永十八年二月林道孝及ヒ其系考勝ノ命編輯
之の大田信中其後宗に其の事を知りて其の父は存元様
セーカテ本支を以テ其の事を知りて其の父は存元様
と云々其の事を知りて其の父は存元様
其の事を知りて其の父は存元様
其の事を知りて其の父は存元様
其の事を知りて其の父は存元様

見

坂田の坂子正遊うそ版如く悟初めてこえ奉りしとそよむと
経つと夕系

あまをちあしあまれ松の山されりしゆそふ不勝る是乃依
りまし一松巨り契、病をうきしとハ松島のみし雪を
ときけう家に函さす此松、色ころのうきともありて、松を
めむしよ松の跨りきしを奉りてきハ

とせちしし終にりく山の梅花廟の飛たたと、吹とん
とけ、さ下まきく正盛をみふりせぬし、妙の松のさか派
しし、さ下まきく、かりよそむい、松のさか派、松のさか派、
人、き丹を滅乃りしとそよむと、松のさか派、松のさか派、

寛永十二年六月廿六日、松のさか派、松のさか派、松のさか派、
にるしとそよむと、松のさか派、松のさか派、松のさか派、
旅としてしつくとおなり、我玉の松のさか派、松のさか派、
松のさか派、松のさか派、松のさか派、松のさか派、松のさか派、

サロ待守の路子けうとそよむと、おちし白雨の降るまきハ

一通り待守まきハ雨晴くあ、松を、き遊ふまきのせし
サニのち松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、
かめり松を、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、

うに、松も及び奴山の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、
き北の夕の、り田原の城、入所ありき、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、
ま、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、
そ、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、

空にあし奴夕立降る松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、
サニの松根の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、
よ、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、
め、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、

松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、松の山されりしゆそふ不勝る是乃依りまし一松巨り契、

とくしくそつ成よあそわしるる

心あるしんあきよをのほかすけふあしるる人のよれを
拍板 宇受敷ノ假面ニハ元文三年ノ銘アリト云ラ是レ此ノ假面
ノ由来テ奉納セシ年ナレハ是ヨ以テ傳來ノ初ヲ知ルニ足ラス蓋
拍板ハ遣唐使ノ往來スル頃彼ノ國ヨリ學ヒ來ル者ニヤ唐ノ所ニ
批レハ淺草ノビニザラハ竹ヲ編ミタル者ナリト云ハ拍板ノ字ハ用フ
レトモ彼ノ國トハ初ヨリ異ナルニヤ滄海一得ニ存ノ説アリ觀音ト
アル當時淺草神社ヲ三社ト云ヒ觀音ヲ隅田川ヨリ引上ケシ
漁師三人ヲ祭レル者ハ誣ヒタルヨリ凡該社所有物ヲ皆觀音ノカ
リ寄セタルヲ以テ觀音ノビニザラトハスレシナリ
板ハ今淺草觀音祭ナトニ曰ヒビニザラト云モノナリ唐記ノ註ニ曰
玄宗ノ時ニ歡樂ニ六横笛一ハ拍板ニ腰鼓三ツヲ用後人ノ歌
舞ニ板ヲ以テ節ヲナスホカ蒙牙カヲ以テ凡ソハ片舞ヲ以テ賀

繪巻 神代卷

キ両手ニ各其端ノ尾ヲ執テコレヲ拍ツ是ヲ拍板トモ云ナリ
「今唱ビクニノ鳥ニテ唱ヲ節スルモノハ此板ノホサキモノナリ」

廿四日ツね成成成か〜

廿五日田子の浦をよそ〜

田子の浦を怪くむ屋の油ぬき〜

廿六日蒲原の行殿をよ〜

廿七日浮雲のむか〜

廿八日思ききの神急ぎ〜

繪巻 神代卷

トキ一ふりせろかかりしも言かりてはまうなと云はるなり
くつろしてひりしと云ふむとの作ま

思ひこ一後河のあふれ云にかくき山の名おとをりし
あり

廿八の宇津の山を越ぬふよけ奉れともかゝ詠物も途
り原のきて成かちれるを御覧して

舞つりき考の御道たより行て着てや世の宇津の山道にを
サ九のち井向差より水かきそとや旅よとむつり

ふ手一八
大井向渡る水もすつきてちりかき神代のはりき

小若の中山を越さそむか影のかふたるか連ちるめ
後一さう渡り

を流しとけりしはきぬ跡跡をさふたり行つたの中山

奥川の成よ入さぬ成まき山ちぶ少捕幸成養一なる今ハ
荒和後さるあり

水手舟の石りのくふ力後一てそのうれるは海守舟
あつ月の如く濱松の成ニソトさしき物と六ソトとま

此多にわしろうぬ柱の器さうれと空をさ
一取吹く林の身ぬまときよのく曇さハ磯石夏の名跡

神之主身跡降す忠房巻一なり後さ船子の下り
海しとささるこの成ハ神祀ス一くまおさあじ台徳

佐船にあらは極誕海一くちり事ありとささる
言おさまき

乙葉一やたち一たのな代をへくかひぬ代ハ廣の松
の形

そ乃あらソ川き登る所あま社の山行乃ハ証行を神ハそ代

の所産神ありて二の子且うはうてさせぬは
後多平よとて神を祈乃と記す

密乳根のうぬは社よはうて川・て何ふためて祈る哉
ひい

ありてりる舟のぬをワとてわんそて

考よきし名こぞ意舟の浦ゆきとありかき浪の

ゆ海

三日矢作の橋を渡りてあむこはあたりとよしこのハ

橋れはあむと向てぬに今ハ社若し生く橋え

し藤よよき舟はとてあすをりき

ハ橋やむしむかにぬきと踏み海のかたつてこうれ

立ハ名左をよ所渡ありてふらあをたそあひ萩原

の宿やあさせぬかこく

およめむてお成すハ萩原乃杖のハハめ乃能北の末

セリ乃タラこえ花のぬ入とわひ御海のため星々の

宴ありて

萩の東に針坂をいふあさやあいらにや常ハあもふ

御女

ハ口証ありあせのむを多かに鏡のむをこそれハて

とらうへはかくれし

旋つうれえハ面つきん彦の面かたりする能ハ能く

九口風さへ鏡をよさたかき希きハあ橋まう少船に

ありて水を後とゆか

浪風の志つけきなりのハ萩の屋ハそれ事き力亦夜り

十一口を後乃笑起りて船近くあさハ月御あをり

あまこれ人ねるなるさぬと見えぬ

萩原

いししりにきふきひの美越へときにそめく九をの
うらち

ぞわりの條の御所に入せたまふ御名名のおめ御所
居りて赤のふくむくむ何あさまき

名子もよおれは内記何あぬ我れ御にうら内さし
何れはさる御所のありきさき

初使 使使るりしはりりて大臣よみふさるる
しし乃御名を供かきと記給く御所退あて

位山并走つる世の中のもの左さぬつあくはり
かゝ流りあむるさるうきさせぬの御りしは

酒席乃厚き御身と人に感しなりをるる御所
その御所は通く人我を御用なりあはれ通御のあ

んうをり下し免し

〇

多と多そそ給ひこそ何き武義聖の芝生かくれの花
抄をこ

かた

後多御院の美心此かとううた記諸多と宮内

少林うかくきし院まよかしと祈りしううて今

少し御強遊のあふしきし方おたく由武源御後

御代法とめある何しういとせれきむのういあむ

をうふしうをあひて端りせむる

さねまははのく致うし御所を記ふともて御

者のせ

まのふいせんの考とて御所

う祈りし世のありさるを目のあに昨のきふの考

らういせん

見

享安四年二月内所記の向を白ひて
後よい志はぬ翁乃歌とめて老とのまか、ハソ
ちりうん

六乃西歌何となす人こ心よかまし、悦みつを何しり
に爰程あくそ、四月廿日か、禮させ、終ひぬ、終る程
よさをあひしと、地の中、海

悲まし、悦ひしと、よまかくに、終るハ、是る事、その中
い、是の年、はか、ま、ん、ま、夜、左、近、物、置、あ、り、ま、に、あ、る、と
尋、ま、り、し、西、ま、歌、あ、り、し、と、礼

風のか、い、成、あ、中、浪、の、音
と、何、その、禮、し、と、た、ま、色、附、短、を、事、る、に、應、り、に、字、法、く
ま、り、し、し、言、ら、う、あ、臣、乃、廿、二、日

松山社中を衣よくし、れ、い

武州角筈長樂寺に成さふ、あ、り、と、記

以一張弓勢定天、以三尺劍光安、胸、士
かく一瞬を、かくさ、あ、い、あ、る、我、々、も、持、守、の、事、之、賢
く、そ、は、け、ぬ、こ、の、後、後、後、三、天、劍、光、水、を、手、一、地
弓、勢、の、月、者、心、り、し、ま、り、ま、り、移、り、れ、あ、り、し、

石川玄蕃、ソ、と、口、と、き、ま、ま、り、し、し、潮、流、傳、の、句、を、う、く
し、り、ま、り、し、記、か、ま、り、し、し、つ、つ、し、し、付、あ、ら、ま、る、

佛、は、ゆ、を、あ、ら、ま、り、し、し、あ、ら、ま、り、し、し、
の、佛、像、の、中、に、荷、負、さ、る、像、あ、り、た、れ、ハ、サ、致、り、

と、は、ま、り、し、し、ま、り、し、し、こ、こ、ま、り、し、し、保、た、れ、ハ、
嗟、哉、の、將、迦、志、や、く、ま、り、し、し、と、ま、り、し、し、
と、は、ま、り、し、し、

その八洲諸島より御行し河内御監諸侯控領より
傳令のしるす御書ありて連々御之の句を御記し
けて之を著しよと明さそとの御事にして之を著
す御書あり

あつさおふ石川あゝの溜りかな

とれくまふ河内乃乎に早孫とありま著

河内、かゝる庭の小使

とちやうぬむ後後そこにあつておひとけり

々々を五人のかかりて馳りむらり記とかく言書は口と

き記のあゝまひつたやむしとぞ 葛城彦

昭坂渡御書安えは能かぬの家りまきあうる御書のなも

をまきたりき人ありまき多に系諸侯撰あつて諸家

の諸乃まゝしとまきあえをのつ御又しとまのかゝる

をまふし高末に

北南を御しとあふしは紫のゆかりとありはまき御乃

高末と御書ありしとこの御感し御記ありと

友、諸成就の時あえり諸乃まきにかきそと

永井信濃守尚政か家臣佐川田嘉六よりけり

昔の御花咲はの御事しと心よかりと峰の白雲

二丸紅葉山の御多座に成さるまに御書ありし折か

ふ御書一葉風より吹ちりしと魚に大なる御書

さるまは是を者に一とれ多ありと御書あり

え

御方此御書記事に伝ふるさるまの御書色に

引きてし御書ありしと御書ありしと

しとそはしと御書の御書ありしと

法

又ホ井一止曰法は道徳基礎の道徳法は標準下

法御ありしとき歌よめと和尙よ仰きまは

久しゆまぢ也新ハリ法して心法とれりあて居

う代あまはあ津も深くかゝりしあ鏡えちち

ソ活の年月外月言成徳も此ならずまきし因新月所

流あり御の志興入道とみり後里しとまハ一勾と

此くまふうとま

月ソ乃乃たきこも居しとえら矢倉式

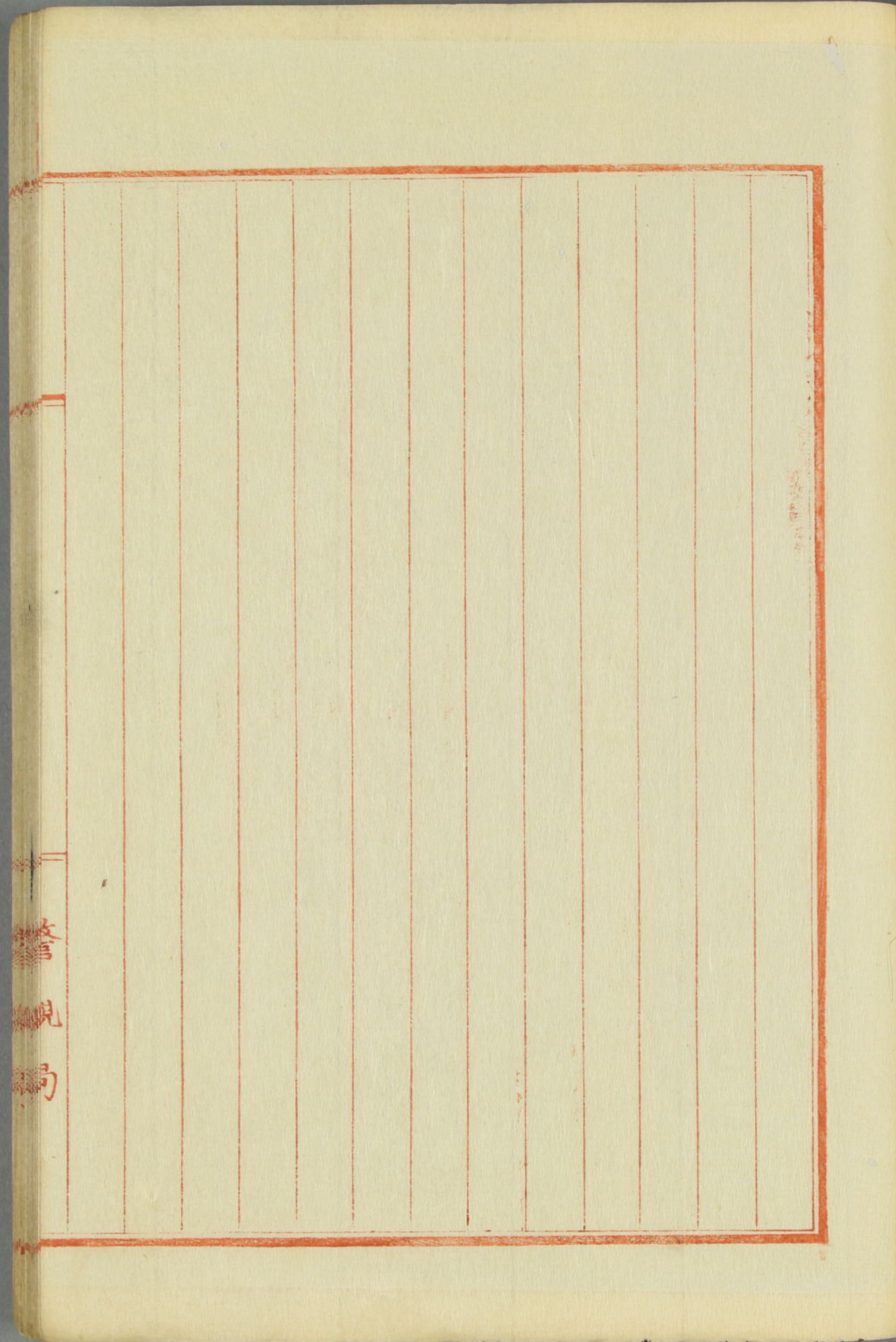
とましとを治く業職の心より成徳と付しとる

ソハハヤしきまやと此とまひそれとる御傍ハ外人

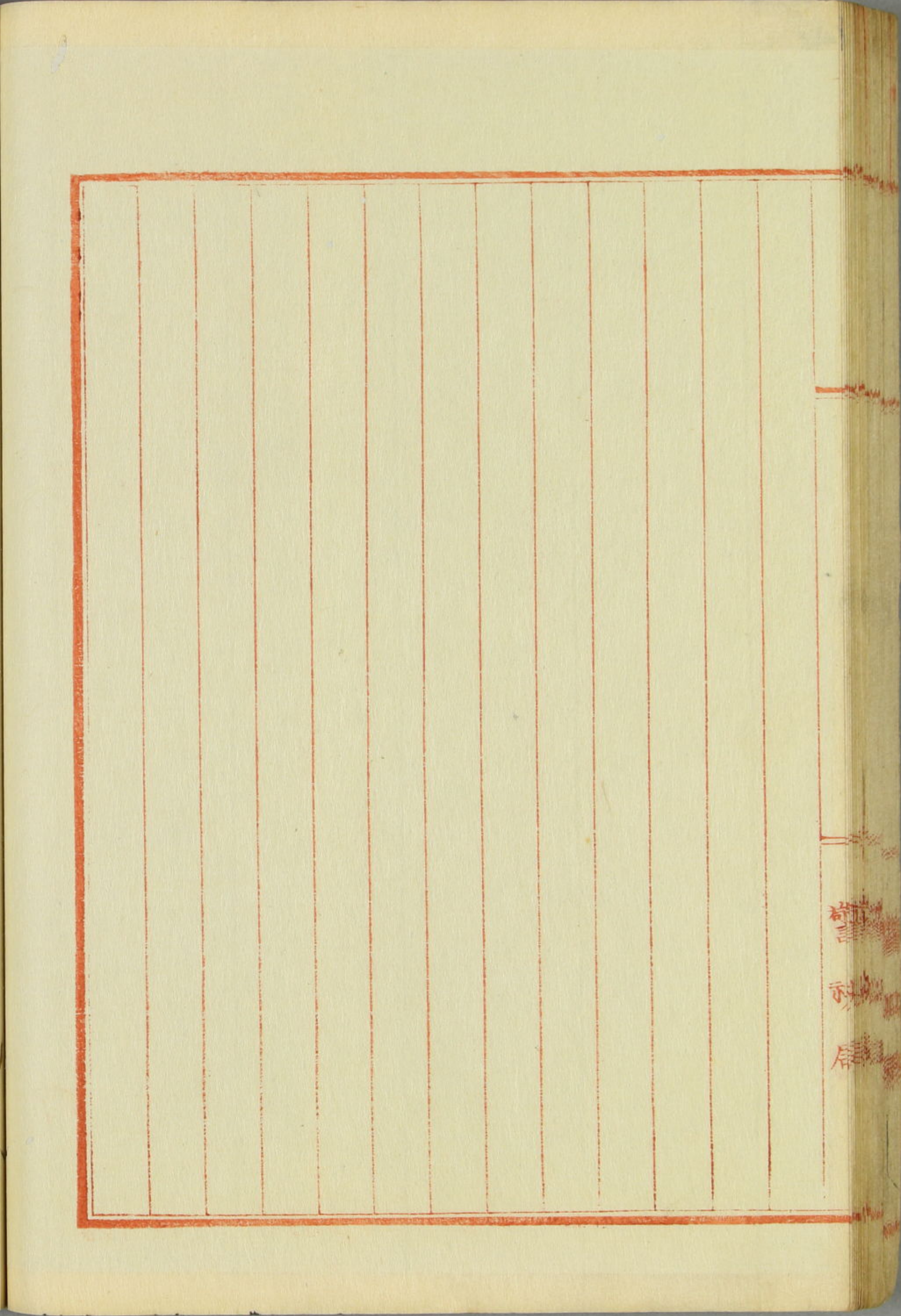
乃此なるつきにあふ祐ハ許も居さむ下とて目えら

と一とれりとまうまうとま

法
御
傍



卷
一
一



一
一
一

卷之三

卷之三

我佛初ノ菩提樹ニ於テ最尊最上ノ真理ヲ發見シ始ニ
 菩提ヲ演説シ玉フ然レテ菩提縁ホタ熟セス聽者聲
 ノ如垂ノ如クニシテ無上ノ貴ノ大法聽ク能ハス此ニ於テ佛在
 野苑ノ中ニ下リ実ヲ隱シ權ヲ施シ四諦ノ法輪ヲ轉シ
 依ニ然リシテ善誘導シ三乗五乗成リ備ヘリ遂ニ一圓実
 教ノ法門ヲ演説シ玉フ如樹ノ間ニ每餘ノ涅槃ヲ示シ玉
 へリ然レハ我佛ノ法門ハ直有一乘ニシテ餘乗アルニテ
 明ナリ

真珠卷 家 一休五演 嗣夢史 壬辰十二月九日 叔八十八

真珠卷 一休五演 嗣夢史

消印の及別

府の諸問屋ヨリ地方へ送り地方ヨリ府へ送り付スベキ
 送状ニハ五箇以上ハ一銭ノ印紙ヲ貼用シ此ノ印紙ニ
 消印ヲナスニ當リ名前ノ下ニハ宛印ヲナシ印紙消
 印ニハ杜如判ヲ用ルヘ常ノ如クニテ其時ニ条例及則
 者トシテ料料ヲ申付ケラルヘ者比ニアリ是レハ宛印ニ
 モアレ仕切判ニモアレ名前ノ下ト印紙ノ消印ト同一ノ
 印ヲ用ユルハ仔細ナキナリ何デモナキ事ナガラ條例規
 則ナド云フ事ハ心得置キ度事ニコソ

後見局

明治万治寛文の年迄ハ牧野佐渡守親成京都を
仕立ありしハ老衰死シ去ルハ京都花震小御ルサタ
右板倉内膳ニ重矩上洛一町奉所ヨリ重水右の
ニハ大ら及檢別れ職ヲ摸ミ水之立清若狭守西至
對馬守トモモモモモモモモモモモモモモモモモ
ニ家門跡の遊具方ハ目モモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ
子金之に云セト云モモモモモモモモモモモモモモ
ト云一 皇矩隱居シテ咬菜斷シテ重矩瘡雨晴目

板倉

内膳正 勝重弟ト云

大坂和陸の使ハ扈從切腹。急京討死。河甲若原

重矩

永立内膳正 竹凡

奥女
二百の
年

急京討死。河甲若原

重矩 永立内膳正 竹凡

奥女の年

京の世。万此の紀。大名の命。人の光。傍。

名をこふ。けり。ゆき。傍。文。年。野。

色。そ。と。傍。楸。の。傍。傍。四。君。子。士。十。人。控。

悔の立元。ろ。白。月。似。せ。き。り。

奥女の年

家康ハホタ天ノ別主トナラサル初濱松ニ居修時内

藤四郎左エ門 甚々怒ノ出アリ白張壯衣来ヲ着シ人門

ノ關ニ立テ居タリシヲ四郎左郎左エ門 喜心ト怪

ク思ヒテ如何ナル者フト尋シニ是家康公如何

ナル者ソト尋シニ我ハ家康公、使ニ來レリト云テ

一首ノ歌ヲ永吟テス

咲花ニ和泉河内ノ治リテ金ノ橋ヲ渡ス

ヨナクテ

此歌を四部左エ門ニ申渡しテ其使ハ歸ル四部左
エ門不審ニ思ヒテ暫ラク見送りケレハ濱松ノ
町ヲ過テハ幡宮ノ鳥井ノ内ニ行リ見テ夢ハ頓
テ覺クリ以末百日ニ當テ亦忠公誕生アリ閑原
御勝ノ後天下ノ主ト仰レ給ヒテ武州江戸ニ遊ビ
アハ市中ニテ家出リテ大橋ヲ渡シ米倉橋ニ立
モ出來リ夢想是ニテハアヒタレモ和泉河内ノ
事ハ更ニ合點ニ不及ル度ニ心ヲ掛テ語リしが其
後 家出ノ駿河一御隠居有テ秀忠將軍ノ孫代
ニ大坂陣出來テ秀頼ヲ亡シ給ヒテ後和泉河内

後播州及越前
大坂ノ神ノ福後
大坂ノ神ノ福後
神社登蒙ニ大坂
神ノ別ノ寺屋
大坂ノ河勝

秀忠ノ如ク治リタルトナリ是ヲ案スルニ内務四部左
エ門何リ夢知泡影ノ理ヲワケニナラシヤ智深ニ
モノナレハ一度秀頼ヲ責亡シ給ハムニ天下棟ニ籠
成カラレ是非ニ慮テ夢想ニヨセテヨナクテ橋造ニ
ヒタリ和泉河内ノ事ハ合點ニ不及ル常ニ治リシカ
當來ノ理ヲ能ク勘テ未來ノ理モカク有ルベシカ
タル者ナリサレハ大ゆノ人ヲ見テ取立給フ事近代ニ
至テハ信玄亦吉公家康公ト承ル(為人抄卷ノ四)
泰河勝 欽明敏達用明崇神推古代ノ所門ニ仕
フ 河勝ニ命シテ六十ニ當ル此相ヲ和泉河内ニ仕
ツルニ六十ニ當ル此相ヲ和泉河内ニ仕
記ノ家震破りキキツと早瀬ニキキツと早瀬ニ
マノ代ノ人代ノそいハ申樂トハ申ヤ

神樂の文

河勝聖徳太子和韓ノ樂を議一國史改修一白鹿白雉金

翠の歌を詠キ旧事詔ニ載キ
各所考高
尤も万有る大酒にきの社一を終りに付、
其の

永徳寺 一石末 坂越房 六石北三 西に孔る流

開基蓮如上人所子善祐房

当寺小浅野家武具 兼美士四十七人の軍跡而歌多潤之

匡王山騷行寺普門院 真言宗 在羊礼村

聖武天皇所立天平年中行基菩薩の御基ニ

八峯十二谷の石山之妙處四ツの不思議あり一小小磨の
城後行者道踏分のいしつ磨飛きて死に別其磨を屏
しじくも海に石を半付かぶる言さそ又所をり大石こ
し磨の半小磨の形形をくりとまると小かぶる人言有

行舟のつ友あり二ハ蟻多力者等後り者の如用三三ハ

蛇塚郡ののんたき孝祝のこしくは保入四ハ乳

卵の卵を山之此山の卵此樹木ハハク形をいしは言こ之板

不戸跡保と云も近きハ古田彈正の城郭城一代郡野

の城主ハ河丹波の房屋我むさなり古田領より仰り合戦

すまと言ハハ河丹波屋と物家あり士制ノそ可代名を保

つきしハハ跡保と云なり

箕 覆山箕 覆寺 在奥天游

用明天皇所立の秦河勝坂越ノ油ニ居住ノ所此山ニ登ル愛大蛇
蟠居スル所ヲ示スモ河勝不審して後大ヲ并、殺ス大ノそ死テ大蛇ニ
食付テリ河勝大ノ房メ弓ヲ三ツニ折テ車塔深リ為後空酒未比ノコシ
ヲ聞テ此ニ似せ遊ヲ建立ス 此山三下そと尤とそス

赤松山宝林寺 後小後より寺一赤松山
修の系村

石室新多寺の石室

淵侯所^レ来佛尺ニ改^ララレ^レ施テ寒暖計^テ撰^ス氏ヲ月^ニ草

右室林寺ハ赤松則祐ノ建立也園心別法和尚ノ同^テ曰^ク法ニ二法有^リ

別法ハ^ハ中^ノ答曰^ク松ニ右^ノ今^ハを^ナら^シル^ル赤松ハ^ハ中^ノ

別村^ハ別^ノ祐^ノ泥^ノ孫^ノ法^ノ不^レ依^ル也

右寺^ハ別^ノ祐^ノノ^ハ覺^ニ立^ル尼^ノノ^ハ依^ル且^ニ園^心則^祐可^レ法^ノ也^ハ伊^ノ阿^ノ

覺女甲斐^ノ極^ノ臨^ノ山^ノ板^ノ隊^ノ和^ノ為^ニ臨^ノ刺^ノ後^ノ一^ノ岩^ノの^ハ及^ニナル^ルを^ハ要^ス今^ハ面^ニ

覺^ニ金^ハ六^ノ歌^ニに^ハ面^をハ^ハ板^ノ下^ノ燒^レ終^レ垣^ノ壁^ノ山^ノ阿^ノま^ハか^ハ烟^ノの^ハ立^ト

板^ノ隊^ノ和^ノ方^ノ返^シ一^ノ恨^イも^ハ心^ヲ田^ヲ中^ノ於^テ海^ノ士^ノ少^ノ船^ノ古^ノめ^ノの^ハ浪

の^ハ立^ルん^ル限^ルん^ル

金^ノ草^ノ山^ノ法^ノ言^ノ者^ハ 福^ノ不^レ 赤^ノ松^ノ板^ノ村^ノ

金^ノ草^ノ山^ノ法^ノ言^ノ者^ハ 福^ノ不^レ 赤^ノ松^ノ板^ノ村^ノ

一^ノ井^ノ山^ノ高^ノ都^ノ利^ノ得^ルる^ハ覺^ニ立^ル尼^ノノ^ハ依^ル且^ニ園^心則^祐可^レ法^ノ也^ハ伊^ノ阿^ノ

一^ノ井^ノ山^ノ高^ノ都^ノ利^ノ得^ルる^ハ覺^ニ立^ル尼^ノノ^ハ依^ル且^ニ園^心則^祐可^レ法^ノ也^ハ伊^ノ阿^ノ

一^ノ井^ノ山^ノ高^ノ都^ノ利^ノ得^ルる^ハ覺^ニ立^ル尼^ノノ^ハ依^ル且^ニ園^心則^祐可^レ法^ノ也^ハ伊^ノ阿^ノ

大史^ノ列^ノ傳^ノ也

覺女

三

覺女

作し、陶末公傍候り、安を以て、信輝傳を以て、
其子、云、子多之、子心、市、死、
戦、
と、

不、
盛衰、
れ、
一、
つ、
を、
い、

鑄の、
せん、
不、
の、
を、

白幡城 赤松氏 在赤村 其平親王五代、苗裔中、院、
下、
白、
武、

藝藩通誌抜摘

戸野 木谷村 桐氏結城氏 先祖結城を剛門、毛利家ニ属ス、時ニ尾
子の遠臣、山中在り、由、回家老、印場柴之助と云、其、毛利、降る
方工門ニ内命ありて、河井新左工門と共に、用防ホ、後送、
途中ホて、これと殺す、新左工門ハ、其、由、申、討、た、工門ハ、
若云、物ヲ討つ、のち、友、弟、ハ、天啓元政、に、い、咎、後、志、其、
の時、有、る、其、村、討、つ、に、降、人、ハ、戸野村、ホ、未
る、享保の比、孫、太郎と云、其、代、の、祀、も、今、村、の、歌
平、し、ふ、その、其、高、孫、太郎、代、の、文、公、の、御、徳、を、
世、次、に、傳、は、る、に、

女藝國豊田郡七

勝原倫実 樂寺寺縁起ニ天慶年中、勝原純及教、朝延ヲ有、國
賊、論、の人、藤、原、倫、実、の、罪、を、故、に、罪、度、又、と、し、て、討、め、ら、る、倫

此の記述は、
及たのとうた、
津門浮朝
注釈、さ、味、方、毛
及、壽、聖、多、詞、評、計
詞、花、集、大、江、臣、房
の、新、こ
美、く、れ、を、あ、り、
う、く、の、ゆ、い、か、ま
に、浮、て、小、海、の
名、こ、そ、惜、名

実、此、史、を、依、前、益、島、に、改、方、其、堂、ニ、在、島、名、一、任、一、当、國、豊、田、郡
七、郎、と、幼、小、倫、実、思、ハ、ハ、く、已、ウ、ウ、後、才、仙、の、口、ニ、れ、る、と、因、ウ、示
音、ヲ、を、屋、立、シ、テ、石、置、寸、と、又、一、たり、按、す、う、に、前、大、子、記、ニ、天、子、三、年
西、國、ハ、左、工、門、仇、ヲ、降、原、倫、実、と、大、作、と、シ、テ、五、改、方、一、勢、四、十、四、騎
仁、伊、清、政、の、兵、子、五、万、降、也、ゆ、い、差、向、り、き、一、ヶ、海、前、益、島、の、
朝、ハ、夜、以、泣、泣、泣、引、ほ、河、波、ハ、回、風、と、り、一、河、河、渡、政、の、境
中、山、ニ、テ、純、友、ヲ、打、傷、一、と、見、由、さ、ゆ、と、終、ハ、山、野、好、右、衛、
経、基、ハ、藤、原、子、幸、大、孫、者、実、ヲ、有、一、て、純、友、を、花、前、村、方、に、
改、方、其、時、風、が、名、ハ、あ、れ、と、倫、実、ハ、有、一、美、乃、の、れ、一、時、も、倫
実、の、興、の、代、に、由、き、ハ、縁、起、の、所、に、信、一、純、友、ハ、示、考、る、よ
義、由、五、六、万、年、来、の、其、史、也、一、皆、云、あ、り、一、純、友、征、伐、の、後、倫、実
所、建、ト、テ、傳、モ、之、曰、き、る、と、思、は、る

撰スルニ一遍ハ
伊豫國ノ任人
河野七郎通廣
カニ男ナリ建
長中ニ發心シ
僧トナリ善應
達チ念佛ノ
法門ヲ修メテ
一年ヲ経テ自
ラ知其房ト
改メ紅州熊野
ニ至リ靈夢
ヲ蒙リ時宗
ヲ開キ建治
三年本州下リ
此寺ヲ建テ之
奉持スルトコ
ニ遷座ノ御像

夫念佛ノ行者用心可レ不由南無阿彌陀
佛トテ即ニ文用心モナクハ一ノ不業ハモテ話シ
徳道ノ極ニ至ルハは用心ノ極ニ至ルハ法徳ニ對シ
タルカリソメノ業ニ由ルヤサレハ念佛ノ行者カヤウノ
トモ打捨テ念佛スヘシ者重ヤ人ノ念佛
ノ中ノ人キト同ケレハ極ニ修メテ餘ノ一何モ
ノ玉ハス下ニ四行ニ一撰集抄ノ義ニ至ルヤ
念佛ノ行者智慧ヲモテ漸クモ修メテ極ニ
ニ極ニ修メテ智慧ヲモテ漸クモ修メテ極ニ
コ修メテ智慧ヲモテ漸クモ修メテ極ニ
申ス念佛ノ行者智慧ヲモテ漸クモ修メテ極ニ
打アケ
唱レハ佛モナリ我モナクニシテ法ノ苑角

ヨシテ神豆ノ
弟子其阿ト
云僧ニ付屬シ
逆ニ攝津國
兵庫ノ觀音
堂ニ遷化シ
東明寺
當麻山
建治三年一遍
上人
新
大和神林寺
相模無量寺
東明寺ヲ加テ
三當麻トス

ノ道理モナシ善惡ノ境亦皆淨土也。求ハカラスイキ
トシケル者山河草木以凡立辰ノ者ト念佛
テラスト云ヘナシ人斗遊世ノ乳ニ乳ニ物ノ又
如キ者カアアスヘヨ打捨テ何任アテカヒト
スメノ不乳ニ任テ念佛シ玉フヘシ念佛ハ業ニ申テ
業ニセスメ申モ他カ越世ノ不乳ニカフヘナシ
何事ヲカ用ハメテヘキ只此ナル印ノ心ニ直取
リテ念佛シ玉フヘシ。南無阿彌陀佛
次修ノ家言シヒキレノモテ消テ日ノ光ヤニ主ノ
土クレ

八月十日
興ノ乳律師以テ

一遍

教書

福吉ノ詞

福ノ神ガ祝入候。世ニヤラフジヤウニハ。宿モカハセ候
ナリ。村モサカエ候ナリ。大ミカドニ小ミカトヤ。オナウモ
ンノ明神アフトスレハタスルヤ。右大将ニ三代トハ。録倉
ノ鳥逐。長者様サリ追サリ。サラハオホミキコレ。キコレ
メレハ申サシ。西田モ四ナ東田モ四ナ。合候テハナ
所カ壺。中ノ田ノヨイ所。苗代トコロ内ヤ定メ候ヤ。
一年カリノ内笑ヘ笑ヘテニ井入テ。トツキ山ニキリサラ
キ。臘月ヲハ弟月ト定メ。正月ウチ月ヲハ太朗月ト
祝ヒテ。祝テカデヤウニハ元三日ノ朝ニ。歳男トイラセ
テ。湯ユイ水ミ日ヲサレワケテ。サイノヨ子ヲ打サ時。若ミツツ
迎ヘオナヤウナントスコし。金ノ煙リ奉ル。コフレオフレ

南百壺ノ御殿ニ。コウラ井縁ノタ。錦縁ノタ。ニ
千疊ヤハカリ。敷ヤナラベ候ナリ。御一門ニ御兄弟
車座ニ居流レ。末廣ノ折敷ニオリヒバチ添テ長柄ノ
御鈍子トキ羽色ノスカハラケ。重盃トアタメ。一度
ニ井レ候ヤ。二度ニ井レ候ヤ。五度モニ井ルコソハ御祝
ヒ長者様ト祝フタリ。

敬重
御
御

火打角合カ

山槐記治承三年六月十七日今日於院有火打角合云
一方么御殿上人僧四十餘人一方北面下藹等也么御方
鉅海淳銀船都云銀二其日納角北面下藹厨子一脚上置銀
手間二合納云

此定近日天下經營諸人愁歎或下知庄園和生牛角數十
通雖持未於下品弁之罪業二因縁之由或人未談二

靜言
辰

敬言
辰

一明智ト秀吉公山崎合戦ノ時天王山ヲ取可鋪トテ堀尾帯カカ攻
登ルニ番ハ堀久太郎ナリ堀七郎兵衛ト云フ家臣諫メケルハ
山上ノ味方敗北セハ必友山明トナルヘシ攻ヲ替テ攻登リ至
ヘト云久太即此詞ニ任セケルニ果シテ堀尾崩レシヲ久太郎
横合ヨリ攻登リ敵ヲ追立ルニ敵ノ將ノ松田モ鉄砲
ニテ討レ終ニマケテラサルナリ武家周談

天正十年明智光秀弑信長暫震威於近境秀吉時在於備只
高松城聞訃音結和親於毛利而揚鞭并日到尾ヶ崎与池田勝
入州羽長秀三七信考相議軍列方定相共進山崎光秀整旅
於山崎放招田ヲ招キ大即左エ門曰汝登天王山直下山崎而可於放弓鳥
銃松田率七百入而登秀吉使堀久郎秀政及堀尾吉晴攻
之秀政能戰招田敗走既而高山右近閉山崎南門不通他

溝

兵即開而先登与光秀先陣伊勢与三郎誦訪親駒守馬牧
三五工兵弟勸兵衛大戰時中川清秀登坂速其左池田又子
濟川衛其右合擊大破之近江之兵早亂走伊賀西訪所
牧皆死光秀乃欲往政之比田帶刀止之陳曰入勝龍寺取今夜
潛起坂本耶光秀乃僅免逃入勝龍寺而檢見其兵則才千人
及至薄虞隙而見之則百人不足夜急半光秀激出勝
龍寺逃于伏見赴少栗和時野伏蜂集蟻同自數中以鎧安
了傷光秀右眼光秀急馳而逃行三町計落馬從僕駕
馳光秀曰總吾為降伏所傷故令如此早斬我首可深藏之
於溝埋屍於首傍而離散明知佐馬助在安土城秀吉未自
而後曰吾守此城何益笑如与光秀同死赴山崎堀久太郎秀
政少戰不伴打之濱老馬破走入坂本城兵士悉散不得以守有
於是殺光秀子自然燒城其身亦死

故事
親
詞

御
詞
后

天正十二年、織田信雄与秀吉、締于弋時

池田勝入、其男、紀伊守之介、森武藏守長一、三好孫七

即秀次、堀久太郎、秀谷率兵到木、柏木、將三州時、篠本

馳人告於小牧山、大權現之陣

以酒井左工門尉忠次、石川伯耆守康昌、本多平八郎

忠勝等留守小牧山、乃別使大須賀五郎左工門尉康高

神原小平田康政、本多彦次、即康重、水野惣兵衛、丹羽

季次為先鋒、發小牧山、到長久手邊

金井烏洲上州島村之人天保弘化ノ頃ニ在テ大ニ丹靑ノ道
ヲ揮擯セラレタ風采蕭灑有致アリ其父ヲ萬古ト号ス俳諧
ニ精シ萱瓦ノ衣鉢ヲ傳フ南湖竹谷玄溪南溟玄山等ヲ其家
接遇烏川翁ノ幼時ヲシテ画及詩ヲ養ヒセシメリ其弟研
香モ画奥ニ達ス長男杏雨ハ能ク南風ヲ學ヒ翁ノ凡揮ヒ立
テラレシグ惜ベシ多病ニシテ死翁ノ弟三子金洞主人金井之恭ナリ

油川殿

三好長教其
三好川持高
細川掃部政
傳又此
三好長法
教身自教
油川掃部政
自教

勝元娶山名教豐之女而學教豐以幼子為養子勝元以其所養
教豐之子為僧教豐怒乃与勝為仇也遂
持賢勝父得シ弟ノ細川藤氏勝元從之弟
根中鴻城主 應仁年中細川勝元討于當國以來其族分居于
國中諸成右馬場時賢居当成天文十八年三月三好元前守長子

長法其弟
之親侵所波

与其族政長入道宗三同左根中為弟細川右京太史晴元買
其宗三、宗三中鴻城主 細川晴元所居同根津國三宅氏者晴元被
官内通於長慶晴元使香西越後守元成攻予し晴元移入三宅
城住、定頼少晴元舅故与晴元約使其子在京太史義賢率
近江兵故し然猶未江州時長慶奉細川次郎氏綱以至河入防
元河内守長教大和人備井順昭等屬為長等進陣於中鴻城
勝元考隱元子也經公方國子

雲野長和軍日其二乃千級象打夫作川西

三好長法其弟
三好川持高
細川掃部政
傳又此
三好長法
教身自教
油川掃部政
自教

三好長法其弟
三好川持高
細川掃部政
傳又此
三好長法
教身自教
油川掃部政
自教

牧師 初年分
今橋城三三守也
没落故義元改今
橋号吉田其後不
落

平姓

小幡

雖為村上源家後為平家

村上天皇、具平親王、師房、顯房、雅定、雅定、定房、定忠、師房、秀房、秀利、頼範、則景、家範、人範、茂範、

義則一則村
次師人道園心
是日末八赤松家

白行 注冬前傳

戴恩記

あふ時人丸の發を函神法仲、このいまれハその用可ハ
一切強多しとも云へし人丸の發防ハさるるる) 必る子一き
と係れれはらき

殺大直
無祖
妻為
小原
肥前守
初教

大垣茂景増 俗に長定系因りて是之返四佐六戸田氏西館臣
所撰之永保年中氏光 二西君の 母有故為今川氏上移檢
使以系和前守且吉田吉田城氏光謂彼忠於君則不為故
母不難欲救母之難則不忠於君有曰大義感 記不如忠
於君之決志任大神君由是永保七年七月朔日其母為
肥前守初言

家忠記 増補 永保七年 大神君召君而駿府三寓居今川三州、諸士ヲ
指揮是依テ質トシテ各妻子ヲ駿府及三州吉田ノ城ニ置テ皆質ヲ指
テ神君ニ忠義ヲ尽ス 吉田城主小原肥前守三州ノ諸士ヲ懲テレガ為メ
私平備後守清善善ガ娘始メ大竹兵右ト尉浅井三丈夫亦子也
子十一人ヲ捕テ吉田ノ城ニ籠念与ニ各是ヲ串刺ニス
冬河國二葉松 三州在後云 渥美郡中野新田十三本塚アリ

敬書 綱 編

池田光政

正徳三年八月廿一日
備前新太親君八右衛門左衛門尉
七人との事向方大石杯ハ以借さるの事種
ヤと信婚子
：以戒しめゆりし事録白の事
（一）

兩夜燈

平岩子洲江親君湯田大正所所一
夜中：於テ湯田子
没なるの所、其時、湯田大正所所一
お供、湯田大正所所一
其年の四月六日、湯田大正所所一
年十一月、湯田大正所所一
其年、湯田大正所所一
其年、湯田大正所所一
其年、湯田大正所所一
其年、湯田大正所所一

徳川実録ニクニタリ

膳魚ヲコゼ
鯨コレイ

天正十六年 慶長五年

鄭州縣名十三万石
總州小多喜四万石
成十五万石

本多中務少輔忠勝

(家元 松下河内守)

長子美濃守政忠
二男公重守忠朝

本多嫡美濃守忠政

慶永八年八月十日五十六歳三子歿死又一子十歳三依于弟甲斐守政朝
彼遠致于日賜之 又忠政有三男嫡忠刻二男政朝三男忠政

次子 公重守忠朝

中務太輔忠刻先父卒之故二男甲斐守政朝兼經遠領

再考
(忠政嫡男)

忠勝 政忠

政朝 甲斐守

嫡男政長後守忠勝不歸幼稚故命内記政勝 忠政弟 忠政守忠朝男美濃守

忠政守忠朝

忠政 美濃守
政信 美濃守

政貞 美濃守
忠義 能登守

敬
規
詩

敬
規
詩

欽定四庫全書

欽定四庫全書

澎湖島、臺灣、
福建、南、

舞、

彈、

庫門、

袍、

辨、

齋、

宗、

何、

五、

ラ、

修、
因、
ト、

米國新統

クレウランドム

前大統領ハア、ソル

前首相ワット、

佛、大、

佛、

淨土宗與日蓮宗法論事

天正七年五月中旬ノ比ヨリ淨土宗靈譽、
女工ノ所ニテ談義ヲ説キ、諸人群集シテ處、
部紹智、大服傳内、内人説法ノ吐へ出、
被申候ハ、若輩ノ若、不審ノ聞ヲ申ス、
了簡有ルヘカラス、所詮各ノ頼、
ガハ、返答慥ニ申スヘシト云、
引セシメ、法華方、使ヲ立、

モ、論ニ及フヘシト云、
妙顯寺、木藏坊、油屋第坊、
云者、遠近ヨリ馳集ル大臣家、
沙汰然ルヘキノ由ヲ以テ、
即長谷川竹、仰付ラレ、
ニモ上意、隨ヒ申ヘキ由、
輩、勝ニノリテ同心申サス、
此上ハ是非ニ不及、
ヲ被仰付、京都ニテ御吟味、
ハキノ由、五山ヨリ撰、
用、京居士ト云者アリ、
添、各法向ノ次第、
四人ノ士ニ津田七兵衛、

教、

説可儀

抛

ノ由仰下ナル誠ニ以テ晴ノ義ナリ同日廿七日安土浄土宗寺浄
巖院佛殿ニ於テ宗論アリ法華宗ハ夥シク結構ニ出之衆
ホレ頂願寺ノリ光院ハ香院場ノ油屋弟坊主妙國寺
不傳等出座ス妙顯寺ノ大藏坊等執ニテ法華八軸
ニ硯折紙所持器ホシ扱浄土宗ハ關東ノ重興長老并
ニ安土田中ニ有テ真女長老只二人ホ席ス皆黒衣ニテ
左道ハ舐ナリ重興ハ以後起某カ所為ニ爲リテ既ニ開
句又云ントスルニ真女先ツ進出テ早口ニテ初問ヲ置キリ
レヨリ宗論始リ畢又真女問テ云ク法花ハ軸ノ中ニ
念佛有リヤ法華ノ云念佛有ク真女ノ云念佛ノ觀アラハ
何ソ念佛無間ニ落ルハ説ク法華ノ曰法華ノ弥陀ト浄土
ノ弥陀ト一舐カ真女ノ云弥陀ハ何レノ処ニアルト一休ヨ
法華ノ云扱ハ何ソ浄土門ニ法華ノ弥陀ヲ捨閑閣也ト捨

ルソヤ真女ノ云念佛ヲ捨ヨト云ニハ非ス念佛ヲ修スル機ノ前
ニ念佛ノ外ヲ捨抛閑閣也ト云ナリ法華ノ云ク念佛ヲ修ス
ル機ノ前ニ法華ヲ捨ヨト云經文有リヤ否ヤ真女曰法
華ヲ捨ヨト云フ證文コリアレ浄土經ニ云善立方便顯
示三業又曰一向專念無量佛ト云法華云無量義經ニ曰種
々説法以方便力四十餘年未顯無實ト云リ真女曰四十餘
年ノ法門ヲ以テ示前ヲ捨ハ方便常四妙ノ内ハ何レノ妙
ヤ法華ノ云四年四妙ノ内ニハ何レノ妙ソヤ真女ノ云法華
ノ妙ヨ汝是ヲ不知乎真女曰法華ノ僧徒此邊若
ニ不及即以テ別口ス真女又曰捨ルカ不捨キ扇ヲ以敵
トイハトモ矜以無言ナリ此時判者ヲ始メ満座一周ニ墮ト
笑テ法華宗ノ袈裟ヲ剥取キ時五月廿七日辰刻ナリ
擧小扇ヲヒラキ立テ一舞ニヒケルニ頂妙寺光ハ妙ノ一字

ニツニリ、打擲セラレ、軸ノ徑五モ見物ノ者トモテ、手ニテ取放
 タレ、法華ノ衆四方、外散リ畢テ、口ニ渡ニ追追テ、者ヲ遣
 シ、悉ク押留セ、叔宗論勝負ノ書付上覽ニ備ヘラルルノ必
 大臣家御座ヲ移サレ、淨土宗、法華宗、各ニ召出サレ、瀨東
 聖譽長老、御扇被下、田中ノ真芳長老、老年埒ヨリ進
 上申テ、東坡カ杖ヲ被下テ、大服傳助召出サレ、被仰留セ、
 國郡ヲ願スル身ニテモ似合サル事ニ在ル、已レ大俗ノ身殊
 更所人壞屋賣ニテ、長老、不審ヲカケ、都鄙ノ騷動仕セシ
 在儀、條ニ不届ノ田御説トサレ、則首ヲカラセラレ、次
 妙國寺不傳儀、度ニ近衛殿御物諾ノ躰、被仰留、不傳儀九
 洲ヨリ、臨上リ、去秋ヨリ在浴一切経ヲ請シ、覺ヘ八宗ヲ兼
 學シテ、法華宗程、能キハナシ、テ、彼宗ヒヨニナリ、内證ニテ
 過分ノ屬託ヲ取ル、其イワレハ、不傳程ノ物智サ、法華宗ニ歸ス

ルハ、諸人皆彼宗ニ歸スヘキ由、信好ノ巧ヲ構、常ノ形
 儀紅梅薄繪ノ小袖ヲ着シ、己カ着タル破レ小袖結
 縁ト申しテ、人ニ脱クレ、殊勝顔ヲ作りテ、今度モ又法
 法華ニ頼ニレ、今度法問ニ務メハ、一期ヲ返ホトノ憑托
 ヲ堅約セシメ、臨下リ、先ツ法問ヲバ申出サテ、宗向勝目ニ候ハ
 且、臨出ヘキト見合セ居テ、重々不届強氣ノ仕合罪科更、
 輕カラストテ、不傳ヲモ誅セラレ、法華ノ僧徒等、寺結構
 ニ造リ居テ、學問ヲ勤メテ、活計ニ口ヲ着シ、妙ノ一字ニ
 コリタル事、由事ノ第一ナリ、向後宗首ヲ改替シ、淨土ノ弟
 子ニナリセテ、然ラスンハ、今度宗論ニ負タル上、自今以後
 他宗ヲ誹謗スルキ由、謾文ヲ仕ルヘキ旨、御仕置付ラ
 レ、即法華宗證文致シテ、法華宗宗論ニ負タル事、天下
 其隠レテシ、是以テ後悔先ニ不立ト云、建部經智泉州

塙ニテ逃行為處ニ追テヲ駈テ搦捕ラレ是又首ヲ刎
テレガテ何レモ御仕置ヲ遂テレ畢又

大佛殿之事

昔ハ十年ヲ造營セシ今度ハ五年成就一備有説ニ云ク也一ウガ計
以方ヤクシラニ往徳信存所ヲ以テ後ク多ク大佛師宗矣法印一
ホヲ字ヤセテその為ハ五年大佛一也一ウガ計ニ云ク也一
棟木ハ五土山ノ有る其能得湖也一ウガ計ニ云ク也一以木一
りニ五万人者多ク其の力用ニクマシクも一ウガ計ニ云ク也

大佛殿

本邦大佛殿偏于聖武帝而後源頼朝奈良鎌倉ニ所造焉
以材而言之盡園中之名木也以銅而言之盡園中之良銅也
其費不知幾億兆也工師匠人數千取芥入深山幽溪之間必
求大木數十圍數十尋而羅列以伐之丁ニ登ク削柿接洞窟

者無舟車之通狹者無步擔之蹊泛山水之流衆霖潦ニ波
而入干河ニ干野以達於其処是皆墮民為之役且一林之至也數
車不耐載之數百年牛馬不能運之藉地以固木使其上許々
邦ニ解巨繩者數万聲或頭墮者日數百人殆非民ニ所克
堪也匠師命群工畜曲而勢以規矩ヲ者斧者鋸者斲者
畢鑿及登補脩作別群匠或誤而死或墜墜而斃夫大
仙殿非一木之所建也而一木之費其如此以一木之殺人其
如此其餘數而可知矣是豈一國之所堪哉奈何民得不害而
重斂台廟之材者山林之產也然伐之不以其時謂之暴天物也
考天也一精氣生干山生干水制人如天然取之者盡謂之貪
而無厭是以先聖之用物也不暴不貪斲木有時守林有屬是
以材木不可勝用鑄金為鼎所以託德之陶銅為象所以
以阜民之是以後代不可勝用之器因内一人集國內一材

山口

依理亮宣政多之良推在天皇十九年用防ノ佐波郡鞠生ノ
浦々々、良濱ニ来リケル

五十七代、後長門守正返リ付先記来リ駐ニル地ニヨリテ多ク、
良ノ姓ヲ賜フ自カラ大内ト名ノル

正返十七代、後流在赤方夫義如月防ノ山口ニ住シ其間良
名譽勲カ國ヲウケシカハ、且皇利ニ從ヒテヤリ、和名紀伊

平國ヲ給フ義ハカセ後キ在赤方夫海邊カ、男ニ人ニ与テ
世方ヲ置カセタマフ

而建大殿果何一所用哉舉国内ノ衣若宝玩善劍而銷鑿行
融以作大依軍何所為哉矣淳淳屬惠世之朝至北而其君

之質不肖不肖之明致教人君ノ於民也養之而已教之
而已大殿大殿非善教ノ其今寧可養可教ノ民而寒餓

之欺惠之謂之君非其君之然則如何而可哉曰養以常産
教以孝弟而已矣天正文祿之際豊臣氏相洛東之地置
天鑿累巨石堆其基城創大殿置大像大像壞于地震大殿燬
於鬱攸中乙酉之年復肯堂之事始焉君子以為一之謂甚
其可再乎羅山集
如十一四

○ 初 諸 所 締 規 則 取 扱 手 渡 第 十 四 条 左 ノ 通 進 加 付 条
此 等 取 扱 手

第 十 四 条 下 水 ヲ 設 ケ ザ ル 地 及 ビ 下 水 口 大 小 ノ 差 ア リ ト
モ 却 テ 所 有 地 境 ヲ リ ニ 尺 (曲 尺) 以 外 ヲ 以 テ 逆 敷 ト 見
做 レ 処 分 ス へ し

堀左衛門督秀政、美濃住人太即左門尉秀重ノ子ニ秀政始メ久
太郎ハ中テ織田信長ニ仕近江國長瀨ノ城ヲタモウ後秀吉ニ仕
羽柴ノ号ヲ許サル四位ノ侍従シテ天正八年関白相摸ノ北條ヲ伐
タレシヤ時一方ノ大将ニテ馳下リ病ニテ五月廿七日品川口
ニテ卒ス年三十八

柳生但馬守宗矩カ物語ハ以時宗矩モ油川玄蕃允興元ノ子ニテ
カメ下ル秀政ノ卒セシ時惜シニサル者ナシ

一三十万石 熱前福井城 天正十四年秀吉賜当地于秀政曰年秀

政卒于小田原陣中 春秋三十八 親昌親智

秀政秀治之像塚关作守記良 秀政ノ二男 熱後藏手城主 親良三男有リ

菅親尚

赤澤新彦
ハリサケ
ミツニタリ

二二ヨリナリ
多相政院

米田乃士リーベリ氏曰少数必スミモ不正ナルニ非ス又多数必
ミモ公正ナルニ非ス

警視局

警視局

一昨年四十八号ノ布告ヲ以テ地方税又辨ノ戸長ヲ公撰スルノ制定ヲ
立タリ我政府ハ先年郡長ヲ以テ其地方ノ人民中ヨリ推選スルキヲ
全シテ郡區吏給料ハ地方會議會ノ議決權アル地方税又辨
タリ此數ケノモノ充分郡區長ハ選任ノ生スヘキ理由トスルヲ得ベシ
祐天和尙と云々淨土宗ヲ著る者方也初ハ其法を承るの類と
云テトト少著成法いと云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
緒向と云々所由ヲ緒川此子所ツと云々姓ノ妻カサシ
と云々要めりし疾風俗ノ人の命ニヒタスル程の収た升
に々々所由もおあり升ヲ系ノ川カノ後ノ水はめ々々々
方々所由の婦々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
限りあり祐天を承る者ハ此ノ法果を以テ成佛ト
スルと兼カニ云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々

瑞石 有カ者所由云々

幡尾迄迄を承る者ハ法任を建てる者ハ満口生言る者也云々
は仍其方々大建をせしト云々國海諸君

池上あつちの日但上人傳信ノ妻も云々大ト其國海諸君を以
て之の付々其伝信の山も云々云々云々云々云々云々云々云々云々

山入を流りと云々云々大依也云々云々云々

源空以聖道為難行念佛為易行而專誦淨土三部經持批
諸聖認云念佛宗日蓮唯偏持誦法華日諸宗無得道日爾

前無成化謂之法華宗兩難爭點歷代不絕疑儲予盾至今
而然戊申之歲日蓮宗徒之日經号常與源空徒之廓山増

時互角論于東武江戸山屢進問經詎死不答其徒末源琳碩
德玉雄可圓皆不能言時議收捕經等已酉之春傳置送
經等京師而傳經於車上其徒五人云如之幸車于洛街令人

諸君

卷九

風湧の花 吹毛玄利居士

はれんれい
堀のまに
堀のまに

前後の

市正藤原利重堀式部少補直二人侍社奉行大務是乃利重
掌理の方取堀のまにに位一平せし
人従親孝逆劄則經又劄其五人彼輩卒日為法華不惜身
命以為常談当之時其何如哉虽欲幸而免官之所不原二
羅山集 五十四

○

依野海老の巻 東院卷三十六 元三年六月頭入道正
義献様

○

鷹一号様知 日本記云仁徳天皇四十二年秋九月 依託此名
阿祈古星之

右主^三地
由一^一後後海
所務^十あり
め計^三
浮^五路^一
横^五路^一
り如^一

ハハ古ニヤ 与ハ新改^レ日由新^レ多^レ停止^レ即^レ更
西^レ習^レ子^レ以^レテ友^レ人^レ、夢^レ懐^レ度^レを^レ乙
三^三五^三八^三名^三第^三二^三段

漢火 イサリ^三ロ^三ビ
海面 ウナリ^三ツ^三ラ

雲菊^三戀

紐^一解^一一^一傳^一と^一と^一白^一菊^一中^一り^一か^一へ^一見^一え^一ぎ^一て^一霜^一菊^一子^一(^一十^一)

秋^一山^一石^一名

鳩^ク酸^ヒ草^三

今^一存^一島^一主^一牧^一所^一を^一内^一所^一
今^一川^一氏^一記^一ト^一和^一教^一ノ^一交^一リ
保^一レ^一今^一語^一ニ^一ヨ^一リ^一左^一義^一ト

親^一長^一

岩^一は^一石^一市^一ニ^一分^一房^一村^一在^一人

長^一親^一

安^一祥^一寺^一城^一主^一松^一平^一治^一初^一三^一即^一花^一人^一ト^一云^一云^一守

信^一忠^一

松^一平^一治^一初^一三^一即^一花^一人^一

吉^一島^一主^一牧^一所^一ハ^一何^一有^一レ^一ニ^一成^一第^一
信^一成^一
号^一吉^一白^一
和^一湖^一白

人^一王^一乃^一女^一後^一初^一多^一位^一以^一今^一今^一川^一ト^一臨^一外^一乱^一礼
一^一押^一殿^一殿^一遠^一三^一城^一奈^一花^一三^一州^一今^一務^一ニ^一達^一未^一年^一名^一保^一ハ^一播^一中^一今^一務^一以^一東^一三^一河^一ノ^一地^一
今^一牧^一所^一有^一步^一ノ^一附^一内^一所^一居^一レ



胡公牙
孤子...
一タリ

山崎...
...
...

陶...
...
...

...
...
...

東京ニ敗直光ヲ陥リ
諺云ク奪ニ將ニ鎮南

西有ヲ襲撃セシスル
ニ情兵之ヲ支一テ諒

山ヲ復タル

鶴籠淡水
岡山宮海

三月廿一日ヲ以テク...
提督...
...

任那...
...

甫慎...
...

...